

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニッポンタイイクダイガク 学校法人 日本体育大学							
フリガナ大学の名称	ニッポンタイイクダイガク 日本体育大学 (Nippon Sport Science University)							
大学本部の位置	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号							
大学の目的	日本体育大学は、学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する大学の目的と方針に則り、広く知識を授け、深く保健体育及びスポーツ並びに保健・医療に関する学術と実務を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を錬磨し、創造性に富み、豊かな人間性と国際的視野をもった教養高き人間を育成するとともに、広く人類の健康の増進及び福祉の充実と、スポーツ文化の向上及び体育の発展に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>我が国のスポーツに関わる高等教育機関においては、スポーツを中核に捉えた他者との共生のための国際相互理解や国際交流、国際支援、国際貢献が求められている。これに応えるべく、本学は「スポーツ文化学部」を新設し、収容定員を増員するものである。</p> <p>「スポーツ文化学部」では、スポーツによる国際相互理解を基軸としながら、国際社会に対して日本の精神に根ざしたスポーツによる開発援助、国際協力、国際交流などの実践的な技術や理論を推進できるような人材を養成することを目的とする。</p> <p>武道教育学科では、我が国固有の身体運動文化である武道や芸道に関する知識と技術を身につけるとともに、国内外において正しく武道や芸道を指導し、伝えることができる人材を養成する。武道や芸道における技術指導のみならず、日本の「道」の精神を国内外に伝えることができる知識と技術を習得させる。</p> <p>スポーツ国際学科では、国際社会において日本の精神文化に立脚したスポーツによる開発援助、国際支援ができるとともに、日本と諸外国とのスポーツ交流を推進できる人材を養成する。スポーツを通じた国際相互理解に基づく、スポーツの開発援助、国際支援ならびに国際交流の知識と技術を習得させる。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	スポーツ文化学部 [Faculty of Sport Culture] 武道教育学科 [Department of Budo Education] スポーツ国際学科 [Department of Sport Studies for International Community]	4	100	—	400	学士 (体育学)	平成29年4月 第1年次	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号
	計	4	100	—	400	学士 (体育学)	平成29年4月 第1年次	
		200	—	800				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>【当該申請以外の申請等】 大学院教育学研究科実践教科教育学専攻 博士前期課程 (20) 博士後期課程 (5) ※平成28年3月 認可申請</p> <p>【収容定員関係学則変更認可の申請について】 スポーツ文化学部 武道教育学科 (100) スポーツ国際学科 (100) ※平成28年3月 大学の収容定員に係る学則変更認可申請</p> <p>【学生募集の停止】 武道学科(廃止) (△120) ※平成29年4月 学生募集停止</p>							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
教育課程	スポーツ文化学部 武道教育学科	75 科目	23 科目	42 科目	140 科目	124 単位				
	スポーツ国際学科	74 科目	24 科目	31 科目	129 科目	124 単位				
教員 組 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新 設 分	スポーツ文化学部 武道教育学科		5 (5)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	12 (12)	2 (2)	81 (34)
		スポーツ国際学科		7 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	1 (1)	65 (30)
		計		12 (12)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	23 (23)	3 (3)	— (—)
	既 設 分	体育学部 体育学科		22 (20)	17 (19)	0 (0)	8 (8)	47 (47)	11 (11)	197 (197)
		健康学科		12 (12)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	4 (4)	129 (129)
		社会体育学科		9 (9)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	18 (18)	11 (11)	115 (115)
		児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科		16 (16)	16 (16)	0 (0)	3 (3)	35 (35)	4 (4)	14 (14)
		保健医療学部 整復医療学科		5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	9 (9)
救急医療学科		7 (7)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	11 (11)	1 (1)	13 (13)		
計		71 (69)	47 (49)	3 (3)	17 (17)	138 (138)	32 (32)	— (—)		
合 計		83 (81)	52 (54)	3 (3)	23 (23)	161 (161)	35 (35)	— (—)		
教員以外の 職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		96 (96)	30 (30)	126 (126)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		8 (8)	0 (0)	8 (8)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		104 (104)	30 (30)	134 (134)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	128,229.52㎡	0㎡	0㎡	128,229.52㎡					
	運 動 場 用 地	81,228.24㎡	0㎡	0㎡	81,228.24㎡					
	小 計	209,457.76㎡	0㎡	0㎡	209,457.76㎡					
	そ の 他	60,790.13㎡	0㎡	0㎡	60,790.13㎡					
合 計		270,247.89㎡	0㎡	0㎡	270,247.89㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	62,764.09㎡ (62,764.09 ㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	62,764.09㎡ (62,764.09 ㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	59室	40室	60室	4室 (補助職員 1人)	0室 (補助職員 1人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	スポーツ文化学部 武道教育学科 スポーツ国際学科			12 室 11 室						
図書・ 設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	522,103 [132,484] (494,103 [127,284])	(6,956 [1,369])	(9,906 [8,230])	54,100 (54,100)	27,316 (27,316)	267 (267)			
	計	522,103 [132,484] (494,103 [127,284])	(6,956 [1,369])	(9,906 [8,230])	54,100 (54,100)	27,316 (27,316)	267 (267)			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	3,128㎡		640席		562,000冊					
体育館	面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						
	42,796.15㎡			野球場、サッカー場、ラグビー場、陸上競技場、温水プール						

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む。)を含む。
	教員1人当り研究費等		750千円	750千円	750千円	750千円	—	—	
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
	図書購入費	2,800千円	2,800千円	2,800千円	2,800千円	2,800千円	—	—	
	設備購入費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	体育学部	1,560千円	1,260千円	1,260千円	1,260千円	—千円	—千円		
	スポーツ文化学部	1,560千円	1,260千円	1,260千円	1,260千円	—千円	—千円		
	児童スポーツ教育学部	1,410千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	—千円	—千円		
	保健医療学部 整復医療学科	1,860千円	1,560千円	1,560千円	1,560千円	—千円	—千円		
保健医療学部 救急医療学科	2,010千円	1,710千円	1,710千円	1,710千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金等						
既設大学等の状況	大学の名称	日本体育大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	体育学部	年	人	年次人	人		倍		
	体育学科	4	750	—	2610	学士(体育学)	1.17	昭和24年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号
	健康学科	4	195	—	675	学士(体育学)	1.16	昭和37年度	
	武道学科	4	120	—	480	学士(体育学)	1.21	昭和40年度	
	社会体育学科	4	195	—	675	学士(体育学)	1.16	昭和50年度	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1
	児童スポーツ教育学部								
	児童スポーツ教育学科						1.03		
	児童スポーツ教育コース	4	150	—	600	学士(児童スポーツ教育)	1.03	平成25年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号
	幼児教育保育コース	4	50	—	200	学士(児童スポーツ教育学)	1.02	平成25年度	
	保健医療学部						1.08		
	整復医療学科	4	90	—	270	学士(整復医療学)	1.10	平成26年度	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1
	救急医療学科	4	80	—	240	学士(救急医療学)	1.07	平成26年度	
	体育科学研究科								
体育科学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	修士(体育科学)	1.60	昭和60年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
体育科学専攻(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(体育科学)	1.77	平成9年度		
附属施設の概要	名称: 体育研究所 目的: 体育・スポーツに関する研究 所在地: 東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月: 昭和37年4月 規模等: 242.37㎡(東京・世田谷キャンパス 教育研究棟G階)								
	名称: スポーツ・トレーニングセンター 目的: 学生の体力向上及びトップアスリートの競技力向上 所在地: 東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月: 昭和39年2月 規模等: 990.56㎡(東京・世田谷キャンパス スポーツ棟1階) 1,874.24㎡(横浜・健志台キャンパス 百年記念館1階)								
	名称: オリビックススポーツ文化研究所 目的: オリビックスの研究を通じて広く世界の福祉に貢献し本邦のスポーツ文化を牽引 所在地: 東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月: 平成27年4月 規模等: 体育研究所と共用(東京・世田谷キャンパス 教育研究棟G階)								

教育課程等の概要

(スポーツ文化学部武道教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 部 共 通 科 目	必修	国語表現Ⅰ	1前	1			○								兼1
		国語表現Ⅱ	2前	1			○								兼1
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1			○								兼1
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1			○								兼1
		基礎英語Ⅰ	1前	1			○								兼1
		基礎英語Ⅱ	1後	1			○								兼1
	選択	法学(日本国憲法)	1前		2		○								兼1
		情報処理(情報機器の操作を含む)	1前		2		○								兼1
		芸術	1前		2		○								兼1
		哲学	1前		2		○								兼2
		心理学	1後		2		○								兼1
		社会学	2前		2		○								兼1
		経済学	2後		2		○								兼1
	歴史学	2前		2		○								兼1	
自由	海外語学研修	2後			2			○						兼1 集中	
	英会話	3通			2			○						兼1	
	ドイツ語	3通			2			○						兼1	
	フランス語	3通			2			○						兼1	
	中国語	3通			2			○						兼1	
小計(20科目)		—	6	16	12			—	0	0	0	0	0	兼14	—
学 部 共 通 科 目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2			○								兼1
		自由1	体育研究発表実演会	1後		1			○		1				集中
	選択1	集団行動実技	1前		1				○				1		
		集団行動演習	2前		1			○					1		
		スポーツと組織	2後		2		○						1		
	選択2	海浜実習	2前		1				○						兼1 集中
		キャンプ実習	2前		1				○						兼1 集中
	選択3	スキー実習	3後		1				○						兼1 集中
		スケート実習	3後		1				○						兼1 集中
	必修2	スポーツ文化研究A	1前		2			○			1				
		スポーツ文化研究B	2後		1				○						兼3
		スポーツ文化研究C	3通		2				○		5	2		5	
		スポーツ文化研究D	4通		2				○		5	2		5	
	自由2	卒業研究	4通			2			○		5	2		5	
必修3	地域社会とスポーツ	1後		2			○							兼1	
自由3	地域ボランティア実習(事前・事後指導含む)	2前			1			○						兼2	
	地域スポーツ演習	3前			1			○						兼2 集中	
必修4	キャリアデザインA	2前		2			○							兼2	
自由4	キャリアデザインB	3前			2			○						兼2	
	インターンシップ実習	2後			1			○		1				集中	
小計(20科目)		—	13	8	8			—	5	2	0	5	0	兼14	—

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学部専門科目(理論)	基幹科目	必修	スポーツ社会学	3前	2			○								兼1	-
		スポーツ哲学	1後	2			○								兼1		
		スポーツ史	1後	2			○								兼1		
		芸道論	2前	2			○								兼1		
	選択	異文化交流論	2前		2			○								兼1	
		スポーツボランティア論	2前		2			○								兼1	
		スポーツの安全指導(リスクマネジメント)	1後		2			○			1						
		スポーツ医学	2前		2			○								兼1	
		野外活動論	1後		2			○								兼1	
	救急処置概論	1前		2			○								兼1		
小計(10科目)		-	8	12	0		-		0	1	0	0	0	0	兼9		
展開科目	選択	身体文化論	2後		2			○								兼1	
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1後		2			○								兼1	
		機能解剖学	1後		2			○								兼1	
		発育発達論	1後		2			○								兼1	
		スポーツ生理学	2後		2			○								兼1	
小計(5科目)		-	0	10	0		-		0	0	0	0	0	0	兼4		
学部専門科目(体育実技)	展開科目	必修	運動方法・体づくり運動(体操)	1後	1					○							兼1
			運動方法・器械運動	1後	1					○							兼1
			運動方法・陸上競技	1前	1					○							兼1
			運動方法・水泳	1前	1					○							兼1
			運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1前	1					○							兼1
			運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1後	1					○				1			兼1
			運動方法・球技A	3前	1					○							
			運動方法・球技B	3後	1					○							
	選択1	運動方法・武道(柔道)	1前		1				○		1						
		運動方法・武道(剣道)	1前		1				○		1			1			
		運動方法・武道(相撲)	1前		1				○		1			1			
	選択2	スポーツ実践指導法・柔道	3前		1				○		1						
		スポーツ実践指導法・剣道	3前		1				○		1						
		スポーツ実践指導法・相撲	3前		1				○		1						
小計(14科目)		-	8	6	0		-		3	0	0	3	0	0	兼8		

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
学科基礎科目	基幹科目 必修	スポーツ文化論	1後	2			○									兼1		
		文化人類学	1前	2			○									兼1		
		スポーツ人類学	1後	2			○									兼1		
		武道論	2後	2			○			1								
		礼法	1前	1											○	兼2		
	小計(5科目)		—	9	0	0	—			1	0	0	0	0	0	兼5	—	
	展開科目	選択1	トレーニング学	2前	2			○									兼1	
			コーチング学	3後	2			○									兼1	
			スポーツ心理学	3前	2			○									兼1	
			スポーツバイオメカニクス	3前	2			○			1							
		選択2	人権教育	2後	2			○									兼1	
			スポーツ栄養学(食品学を含む)	2前	2			○									兼1	
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2後	2			○									兼1	
			学校安全(救急処置を含む)	3前	2			○									兼1	
		選択3	国際情勢理解	2後	2			○									兼1	
			スポーツと国際協力	3前	2			○									兼1	
選択4	国際保健学	3後	2			○									兼1			
	伝統芸能論	3後	2			○									兼1			
選択4	伝統芸能史	2後	2			○									兼1			
	伝統芸能の諸相	1後	2			○									兼1			
選択4	比較舞踊学	2前	2			○									兼1			
	比較舞踊学	2前	2			○									兼1			
小計(16科目)		—	0	32	0	—			1	0	0	0	0	0	兼13	—		
学科専門科目	基幹科目 (理論)	武道教育論	2前	2			○			1						兼6 兼1		
		武道技術論	3後	2			○			2								
		稽古論	3後	2			○											
	選択	比較武道文化論	2前	2			○			1								
		武道国際普及論	2前	2			○						1					
	選択	武道国際交流論	2後	2			○			1								
		小計(6科目)	—	8	4	0	—			3	0	0	1	0	兼7	—		
	基幹科目 (実践)	伝統文化交流実習A	2後	1					○	1						集中		
		伝統文化交流実習B	2後	1					○	1						集中		
	小計(2科目)		—	0	2	0	—			1	0	0	0	0	兼0	—		
展開科目 (理論)	選択	武道科教育法	3後	2			○			1						オムニバス 兼2 兼1 兼1 兼1		
		武道教育研究法	3前	1				○										
		武道用具論	3前	2			○			1								
		武道文献講読	4後	2			○			1								
		武道史各論	2後	2			○											
		舞踊創作論(作品論を含む)	2前	2			○											
		古典芸能論(能・舞踊)	4後	2			○											
		芸能鑑賞論	4前	2			○											
伝統芸能交流論	2前	2			○													
小計(9科目)		—	0	17	0	—			2	0	0	1	0	兼7	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門科目	選択1	国際武術実技	1後	1				○							兼1		
		競技スポーツ実技	3後	1				○							兼1		
		武道実技(弓道)	2前	1					○						兼2		
		武道実技(形)	3前	1					○						兼1		
	展開科目(実践)	選択2	専攻武道実技Ⅰ	1通	2				○	1			2		兼5		
			専攻武道実技Ⅱ	2通	2				○	1			2		兼5		
			専攻武道実技Ⅲ	3通	2					○	1		1		兼6		
			専攻武道実技Ⅳ	4通	2					○	1		1		兼6		
			伝統芸能実技1	1前	1					○					兼1		
			伝統芸能実技2	1後	1					○			1		兼1		
			伝統芸能実技3	2前	1					○					兼1		
			伝統芸能実技4	2後	1					○					兼1		
			伝統芸能実技5	3前	1					○					兼1		
			伝統芸能実技6	3後	1					○			1		兼1		
	伝統芸能実習Ⅰ	2後	1					○					兼1	集中			
	伝統芸能実習Ⅱ	3後	1					○			1		兼1	集中			
小計(16科目)		—	0	20	0	—			2	0	0	4	0	兼16	—		
学科専門科目	資格関連科目	選択	教師論	1前	2			○							兼1		
			教育原理	1後	2			○							兼1		
			教育心理学	2後	2				○		1						
			体育科教育実践法	3前	1					○						兼1	
			保健科教育実践法	3後	1					○						兼1	
			体育科教育法	2前	2				○							兼1	
			保健科教育法	2後	2				○							兼1	
			教育課程論	3後	2				○							兼1	
			学習指導論	3前	2				○							兼1	
			道德教育の研究	2前	2				○							兼1	
			特別活動の研究	2後	2				○							兼1	
			生徒指導論(進路指導を含む)	3前	2				○			1				兼1	
			教育カウンセリング	3後	2				○							兼1	
	教育経営	3後	2				○							兼1			
自由	事前事後の指導	4前		1			○							兼1	集中		
	教育実習	4前		4			○							兼1	集中		
	教職実践演習	4後		2			○							兼1			
小計(17科目)		—	0	26	7	—			1	1	0	0	0	兼10	—		
合計(140科目)		—	52	153	27	—			5	2	0	5	0	兼81	—		
学士又は称号	学士(体育学)		学位又は学科の分野					体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
<p><学部共通科目>の【教養科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択から8単位以上、【総合科目】必修1から2単位、必修2から7単位、必修3から2単位、必修4から2単位、選択1から2単位以上、選択2から1単位以上、選択3から1単位以上、<学部専門科目(理論)>【基幹科目】から必修科目8単位、選択から6単位以上、【展開科目】選択から4単位以上、<学部専門科目(体育実技)>【展開科目】必修科目から8単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、小計59単位以上修得し、<学科基礎科目>の【基幹科目】から必修科目9単位、【展開科目】選択1から4単位以上、選択2から6単位以上、選択3から2単位以上、選択4から4単位以上、小計25単位以上修得し、<学科専門科目>の【基幹科目(理論)】から必修科目8単位、選択から2単位以上、【基幹科目(実践)】選択から1単位以上、【展開科目(理論)】選択から8単位以上、【展開科目(実践)】選択1から2単位以上、選択2から8単位以上、【資格関連科目】選択から11単位以上、小計40単位以上修得し、合わせて124単位以上修得すること。</p> <p>(履修単位の年間登録の上限:44単位(年間))</p>								1学年の学期区分				2学期○					
								1学期の授業時間				15週○					
								1時限の授業時間				90分○					

教育課程等の概要

(スポーツ文化学部スポーツ国際学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学 部 共 通 科 目	必修	国語表現Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		国語表現Ⅱ	2前	1				○							兼1		
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1					○		1						
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1					○		1						
		基礎英語Ⅰ	1前	1					○		1						
		基礎英語Ⅱ	1後	1					○		1						
	選択	法学(日本国憲法)	1前		2			○								兼1	
		情報処理(情報機器の操作を含む)	1前		2			○								兼1	
		芸術	1前		2			○								兼1	
		哲学	1前		2			○								兼2	
		心理学	1後		2			○								兼1	
		社会学	2前		2			○								兼1	
		経済学	2後		2			○								兼1	
	歴史学	2前		2			○			1							
	自由	海外語学研修	2後			2			○		1					集中	
英会話		3通			2			○		1							
ドイツ語		3通			2			○							兼1		
フランス語		3通			2			○							兼1		
中国語		3通			2			○							兼1		
小計(20科目)		—	6	16	12			—		1	1	0	0	0	兼12	—	
学 部 共 通 科 目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2			○				1						
		自由1	体育研究発表実演会	1後			1			○						兼1	集中
	選択1	集団行動実技	1前		1					○						兼1	
		集団行動演習	2前		1				○							兼1	
		スポーツと組織	2後		2			○								兼1	
	選択2	海浜実習	2前		1					○						兼1	集中
		キャンプ実習	2前		1					○						兼1	集中
	選択3	スキー実習	3後		1					○						兼1	集中
		スケート実習	3後		1					○						兼1	集中
	必修2	スポーツ文化研究A	1前		2			○			1						
		スポーツ文化研究B	2後		1				○							兼3	
		スポーツ文化研究C	3通		2				○		7	2		1			
		スポーツ文化研究D	4通		2				○		7	3		1			
自由2	卒業研究	4通			2			○		7	3		1				
必修3	地域社会とスポーツ	1後		2			○								兼1		
自由3	地域ボランティア実習(事前・事後指導含む)	2前			1				○	1	1						
	地域スポーツ演習	3前			1			○							兼2	集中	
必修4	キャリアデザインA	2前		2			○								兼2		
自由4	キャリアデザインB	3前			2			○							兼2		
	インターンシップ実習	2後			1				○						兼1	集中	
小計(20科目)		—	13	8	8			—		7	3	0	1	0	兼13	—	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学部専門科目(理論)	基幹科目	スポーツ社会学	3前	2			○								兼1		
		スポーツ哲学	1後	2			○			1							
		スポーツ史	1後	2			○			1							
		芸道論	2前	2			○								兼1		
	選択	異文化交流論	2前		2			○								兼1	
		スポーツボランティア論	2前		2			○								兼1	
		スポーツの安全指導(リスクマネジメント)	1後		2			○								兼1	
		スポーツ医学	2前		2			○								兼1	
		野外活動論	1後		2			○								兼1	
	救急処置概論	1前		2			○								兼1		
	小計(10科目)		—	8	12	0	—			0	2	0	0	0	兼8	—	
	展開科目	身体文化論	2後		2			○								兼1	
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1後		2			○								兼1	
		機能解剖学	1後		2			○								兼1	
発育発達論		1後		2			○								兼1		
スポーツ生理学		2後		2			○								兼1		
小計(5科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—		
学部専門科目(体育実技)	展開科目	運動方法・体づくり運動(体操)	1後	1					○	1							
		運動方法・器械運動	1後	1					○						兼1		
		運動方法・陸上競技	1前	1					○						兼1		
		運動方法・水泳	1前	1					○						兼1		
		運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1前	1					○	1							
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1後	1					○	1					兼1		
		運動方法・球技A	3前	1					○						兼1		
		運動方法・球技B	3後	1					○						兼1		
	選択1	運動方法・武道(柔道)	1前		1				○							兼1	
		運動方法・武道(剣道)	1前		1				○							兼2	
		運動方法・武道(相撲)	1前		1				○							兼1	
	選択2	スポーツ実践指導法・柔道	3前		1				○							兼1	
		スポーツ実践指導法・剣道	3前		1				○							兼1	
		スポーツ実践指導法・相撲	3前		1				○							兼1	
小計(14科目)		—	8	6	0	—			3	0	0	0	0	兼10	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科基礎科目	基幹科目 必修	スポーツ文化論	1後	2			○						1			兼1
		文化人類学	1前	2			○									兼1
		スポーツ人類学	1後	2			○			1						兼1
		武道論	2後	2			○									兼1
		礼法	1前	1					○							兼2
	小計(5科目)		—	9	0	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼4	—
	展開科目	選択1	トレーニング学	2前	2			○								兼1
			コーチング学	3後	2			○								兼1
			スポーツ心理学	3前	2			○								兼1
			スポーツバイオメカニクス	3前	2			○								兼1
		選択2	人権教育	2後	2			○								兼1
			スポーツ栄養学(食品学を含む)	2前	2			○								兼1
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2後	2			○								兼1
			学校安全(救急処置を含む)	3前	2			○								兼1
	選択3	スポーツ経営管理学	3後	2			○								兼1	
		国際情勢理解	2後	2			○								兼1	
選択4	スポーツと国際協力	3前	2			○			1							
	国際保健学	3後	2			○			1							
小計(16科目)		—	0	32	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼11	—	
学科専門科目	基幹科目 (理論)	必修	スポーツ国際概論	2後	2			○							兼1	
			スポーツフィールドワーク論	2前	2			○			1					
			アジアのスポーツ文化論	3前	2			○					1			
			欧米のスポーツ文化論	3後	2			○			1					
			ニュースポーツ論	1前	2			○						1		
	小計(5科目)		—	10	0	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼1	—
	基幹科目 (実践)	必修	スポーツフィールドワーク実習	2後	1				○		1					
			ニュースポーツ実技	1後	1				○				1			
		選択	スポーツ国際実習	3後	1				○		1					集中
			スポーツ国際支援実習	3後	1				○		1					集中
	小計(4科目)		—	2	2	0	—	—	—	2	1	0	1	0	兼0	—
	展開科目 (理論)	選択	スポーツとコミュニケーションA	2後	1			○			1					
			スポーツとコミュニケーションB	2後	1			○			1					
			スポーツマネジメント	3前	2			○								兼1
			世界のスポーツ情勢	3後	2			○			1					
			スポーツメガイイベント論	2前	2			○								兼1
スポーツ政策論			2後	2			○								兼1	
スポーツ情報リテラシー			3後	2			○								兼1	
比較スポーツカリキュラム論			2前	2			○			1						
スポーツ運動のメカニズム論			3後	2			○								兼1	
健康スポーツ開発論			3後	2			○			1						
小計(10科目)		—	0	18	0	—	—	—	3	1	0	0	0	兼5	—	
展開科目 (実践)	選択	エスニックスポーツ実技	1後	1				○							兼1	
		身体表現実技	2前	1				○							兼2	
		海外スポーツ指導実技	3後	1				○		1						
小計(3科目)		—	0	3	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼3	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門科目	資格関連科目	選択	教師論	1前	2		○								兼1		
			教育原理	1後	2		○									兼1	
			教育心理学	2後	2		○									兼1	
			体育科教育実践法	3前	1			○								兼1	
			保健科教育実践法	3後	1			○								兼1	
			体育科教育法	2前	2		○									兼1	
			保健科教育法	2後	2		○									兼1	
			教育課程論	3後	2		○									兼1	
			学習指導論	3前	2		○									兼1	
			道德教育の研究	2前	2		○									兼1	
			特別活動の研究	2後	2		○									兼1	
			生徒指導論 (進路指導を含む)	3前	2		○									兼1	
			教育カウンセリング	3後	2		○									兼1	
			教育経営	3後	2		○									兼1	
			自由	事前事後の指導	4前		1		○		1						集中
				教育実習	4前		4		○		1						集中
				教職実践演習	4後		2		○		1						
小計(17科目)			—	0	26	7	—	1	0	0	0	0	0	兼11	—		
合計(129科目)			—	56	133	27	—	7	3	0	1	0	0	兼65			
学士又は称号	学士(体育学)			学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
<p><学部共通科目>の【教養科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択から8単位以上、【総合科目】必修1から2単位、必修2から7単位、必修3から2単位、必修4から2単位、選択1から2単位以上、選択2から1単位以上、選択3から1単位以上、<学部専門科目(理論)>【基幹科目】から必修科目8単位、選択から6単位以上、【展開科目】選択から4単位以上、<学部専門科目(体育実技)>【展開科目】必修科目から8単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、小計59単位以上修得し、<学科基礎科目>の【基幹科目】から必修科目9単位、【展開科目】選択1から4単位以上、選択2から6単位以上、選択3から2単位以上、選択4から4単位以上、小計25単位以上修得し、<学科専門科目>の【基幹科目(理論)】から必修科目10単位、【基幹科目(実践)】から必修科目2単位、選択から1単位以上、【展開科目(理論)】選択から14単位以上、【展開科目(実践)】選択から2単位以上、【資格関連科目】選択から11単位以上、小計40単位以上修得し、合わせて124単位以上修得すること。</p> <p>(履修単位の年間登録の上限:44単位(年間))</p>							1学年の学期区分		2 学期								
							1学期の授業時間		1 5 週								
							1時限の授業時間		9 0 分								

教育課程等の概要

(体育学部体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学部共通科目	言語表現科目	必修1	国語表現Ⅰ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼5	
			国語表現Ⅱ	2	1								0	0	0	0	0	兼5
			基礎英語Ⅰ	1	1					○			0	0	0	1	0	兼14
			基礎英語Ⅱ	1	1					○			0	0	0	1	0	兼14
			英語コミュニケーションⅠ	2	1					○			1	0	0	1	0	兼9
			英語コミュニケーションⅡ	2	1					○			1	0	0	1	0	兼9
			小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	—	—	—	1	0	0	1	0	兼27
	教養科目	選択1		哲学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼2
				法学(日本国憲法を含む)	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1
				心理学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼2
				芸術(音楽)	1		2			○			1	0	0	0	0	兼1
				生命科学	1		2			○			0	1	0	0	0	兼2
				情報処理(情報機器の操作を含む)	1		2			○			1	0	0	0	0	兼3
				小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	—	2	1	0	0	0	兼11
		選択2		文学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1
				社会学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1
				歴史学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1
				経済学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1
				統計学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼2
				エコロジー	2		2			○			0	0	0	0	0	兼4
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼10			
	外国語科目	自由1		海外語学研修	1			2			○		0	0	0	0	0	兼0 集中
				応用英語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼2
				ドイツ語	2通			2			○		1	0	0	0	0	兼1
				中国語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼1
				コア語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼1
	小計(5科目)	—	0	0	10	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼5			
総合教育科目	必修1		日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1	2				○			1	0	0	0	0	兼0	
			小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼0		
	自由1		体育研究発表実演会	1			1			○		0	0	0	0	0	兼1 集中	
			小計(1科目)	—	0	0	1	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1		
	選択1		海浜実習	2		1				○		1	1	0	0	0	兼0 集中	
			キャンプ実習	2		1				○		0	0	0	0	0	兼1 集中	
			小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼1		
	選択2		スキー実習	3		1				○		0	0	0	0	0	兼1 集中	
			スケート実習	3		1				○		0	0	0	0	0	兼1 集中	
			小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2		
	キャリアデザイン科目	必修1		キャリアデザインA	2	2				○			0	0	0	0	兼4	
小計(1科目)				—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4		
自由1			キャリアデザインB	3			2		○			0	0	0	0	0	兼1	
			インターンシップ(事前事後指導を含む)	2			1			○		0	0	0	0	0	兼1 集中	
小計(2科目)	—	0	0	3	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2				
専門教育科目	理論系科目	必修1	スポーツ研究A	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			スポーツ哲学	1	2				○			1	0	0	0	0	兼1	
			スポーツ史	2	2				○			1	0	0	0	0	兼0	
			機能解剖学	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			スポーツ生理学	2	2				○			0	0	0	0	0	兼3	
			野外活動論	1	2				○			0	0	0	0	0	兼3	
			小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 共通科目	専門 教育科目	必修1	スポーツ研究B	2	1					0	1	0	2	0	兼1
			スポーツ研究C	3通	2				○	19	16	0	7	0	兼1
			スポーツ研究D(卒業研究を含む)	4通	4				○	0	0	0	0	0	兼1
			小計(3科目)	—	7	0	0	—	—	19	17	0	5	0	兼52
		必修2	運動方法・体づくり運動(体操)	1	1				○	2	0	0	0	0	兼5
			運動方法・器械運動	1	1				○	1	1	0	0	0	兼4
			運動方法・陸上競技	1	1				○	1	1	0	1	0	兼2
			運動方法・水泳	1	1				○	1	1	0	0	0	兼9
			運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	1				○	1	0	0	1	0	兼2
			運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼6
		小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	6	3	0	2	0	兼28	
		選択1	運動方法・バスケットボール	1		1			○	0	1	0	0	0	兼3
			運動方法・ハンドボール	1		1			○	1	1	0	1	0	兼0
			運動方法・サッカー	1		1			○	1	0	0	0	0	兼1
			運動方法・ラグビー	2		1			○	0	1	0	0	0	兼0
		小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	2	3	0	1	0	兼4	
		選択2	運動方法・バレーボール	1		1			○	0	1	0	0	0	兼3
			運動方法・テニス	2		1			○	0	1	0	0	0	兼3
			運動方法・卓球	1		1			○	1	0	0	0	0	兼3
			運動方法・バドミントン	1		1			○	0	1	0	1	0	兼0
		小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	1	3	0	1	0	兼8	
		選択3	運動方法・武道(柔道)	1		1			○	0	0	0	0	0	兼3
			運動方法・武道(剣道)	1		1			○	0	0	0	0	0	兼4
			運動方法・武道(相撲)	1		1			○	0	0	0	0	0	兼2
運動方法・レスリング	2			1			○	0	1	0	0	0	兼0		
小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	0	1	0	0	0	兼9			
体育学科 共通科目	展開 科目	必修1	トレーニング学	2	2			○	0	0	0	0	0	兼1	
			コーチング学	2	2			○	1	0	0	0	0	兼1	
			スポーツバイオメカニクス	3	2			○	2	0	0	0	0	兼1	
			測定評価学	3	2			○	0	1	0	0	0	兼0	
			スポーツ心理学	3	2			○	0	0	0	1	0	兼3	
			小計(5科目)	—	10	0	0	—	—	3	1	0	1	0	兼6
		選択1	発育発達論	1		2		○	0	0	0	0	0	0	兼1
			衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1		2		○	0	0	0	0	0	0	兼2
			スポーツ栄養学(食品学を含む)	2		2		○	0	0	0	0	0	0	兼2
			スポーツ医学	2		2		○	0	0	0	0	0	0	兼2
			テーピング理論(実習を含む)	2		2		○	0	0	0	0	0	0	兼1
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2		2		○	0	0	0	0	0	0	兼2
			健康管理学	3		2		○	0	0	0	0	0	0	兼1
			スポーツ社会学	3		2		○	0	0	0	0	0	0	兼2
			スポーツ経営管理学	3		2		○	1	0	0	0	0	0	兼1
			スポーツ人類学	3		2		○	0	0	0	0	0	0	兼1
			生涯スポーツ論	1		2		○	0	0	0	0	0	0	兼1
			学校安全(救急処置を含む)	3		2		○	0	0	0	0	0	0	兼3
			人権教育	3		2		○	0	0	0	0	0	0	兼2
		小計(13科目)	—	0	26	0	—	—	1	0	0	0	0	兼21	
		選択2	専門運動方法(トランポリン)	2		1			○	0	1	0	0	0	兼2
			専門運動方法(ゴルフ)	4		1			○	0	0	0	0	0	兼2
			専門運動方法(アーチェリー)	4		1			○	0	0	0	0	0	兼2
			エアロビックダンス	2		1			○	0	0	0	0	0	兼3
専攻実技研究I	3通			2			○	0	0	0	0	0	兼1		
専攻実技研究II	4通			2			○	0	0	0	0	0	兼1		
小計(6科目)	—	0	8	0	—	—	0	1	0	0	0	兼11			
選択3	ストレッチング実習	1		1			○	0	0	0	1	0	兼3		
	トレーニング実践演習	2		1			○	0	0	0	0	0	兼3		
	運動処方演習	2		1			○	0	0	0	0	0	兼4		
	ゴルフ実習	4		1			○	0	0	0	0	0	兼1		
小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	0	0	0	1	0	兼11			

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹科目	必修1	体育科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼3	
		保健科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼2	
		小計(2科目)	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	兼5	
展開科目	選択1	体育科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	兼4	
		保健科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	兼3	
		小計(2科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼7	
スポーツ教育 領域科目	選択2	教育原理	1		2		○		0	0	0	0	0	兼2	
		教育心理学	2		2		○		0	0	0	0	0	兼2	
		道德教育の研究	2		2		○		1	0	0	0	0	兼1	
		特別活動の研究	2		2		○		0	0	0	0	0	兼3	
		スポーツ行政	2		2		○		0	0	0	0	0	兼2	
		スポーツトレーニング論A(心)	2		2		○		0	0	0	1	0	兼0	
		スポーツトレーニング論B(技)	2		2		○		1	0	0	0	0	兼0	
		スポーツトレーニング論C(体)	2		2		○		0	0	0	0	0	兼1	
		学習指導論	3		2		○		0	0	0	0	0	兼2	
		教師論	3		2		○		1	0	0	0	0	兼0	
		教育経営	3		2		○		0	0	0	0	0	兼1	
		生徒指導論(進路指導を含む)	3		2		○		0	0	0	0	0	兼3	
		教育課程論	3		2		○		0	0	0	0	0	兼1	
		教育カウンセリング	3		2		○		0	0	0	0	0	兼3	
	小計(14科目)	—	0	28	0	—		2	0	0	1	0	兼18		
展開科目	選択3	スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)	3		1		○		1	0	0	0	0	兼2	※実技含む
		スポーツ実践指導法・器械運動	3		1		○		1	0	0	0	0	兼3	※実技含む
		スポーツ実践指導法・陸上競技	3		1		○		1	1	0	0	0	兼2	※実技含む
		スポーツ実践指導法・水泳	3		1		○		0	0	0	0	0	兼7	※実技含む
		スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)	3		1		○		1	0	0	1	0	兼2	※実技含む
		スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3		1		○		0	0	0	0	0	兼4	※実技含む
			小計(6科目)	—	0	6	0	—		4	1	0	1	0	兼20
展開科目	選択4	スポーツ実践指導法・バスケットボール	3		1		○		0	1	0	0	0	兼3	※実技含む
		スポーツ実践指導法・ハンドボール	3		1		○		1	1	0	1	0	兼0	※実技含む
		スポーツ実践指導法・サッカー	3		1		○		0	1	0	0	0	兼1	※実技含む
		スポーツ実践指導法・ラグビー	4		1		○		0	1	0	0	0	兼0	※実技含む
			小計(4科目)	—	0	4	0	—		1	4	0	1	0	兼4
展開科目	選択5	スポーツ実践指導法・バレーボール	3		1		○		0	2	0	0	0	兼1	※実技含む
		スポーツ実践指導法・卓球	3		1		○		1	0	0	0	0	兼2	※実技含む
		スポーツ実践指導法・テニス	4		1		○		0	2	0	0	0	兼0	※実技含む
		スポーツ実践指導法・バドミントン	3		1		○		0	1	0	1	0	兼1	※実技含む
			小計(4科目)	—	0	4	0	—		1	5	0	1	0	兼4
展開科目	選択6	スポーツ実践指導法・柔道	3		1		○		0	0	0	0	0	兼3	※実技含む
		スポーツ実践指導法・剣道	3		1		○		0	0	0	0	0	兼4	※実技含む
		スポーツ実践指導法・相撲	3		1		○		0	0	0	0	0	兼4	※実技含む
		スポーツ実践指導法・レスリング	4		1		○		0	2	0	0	0	兼0	※実技含む
			小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	2	0	0	0	兼11
自由科目	自由	事前事後の指導	4			1		○	0	0	0	0	0	兼8	
		教育実習	4			4		○	0	0	0	0	0	兼1	集中
		教職実践演習	4			2		○	0	0	0	0	0	兼8	
		小計(3科目)	—	0	0	7	—		0	0	0	0	0	兼10	

別記様式第2号(その2の1)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹科目	必修1	スポーツトレーニング論A(心)	2	2		○			0	0	0	1	0	兼0
		スポーツトレーニング論B(技)	2	2		○			1	0	0	0	0	兼0
		スポーツトレーニング論C(体)	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	1	0	0	1	0	兼1	
競技スポーツ領域科目	展開科目	アスレティックトレーニング論(基礎Ⅰ)A	2前	2		○			0	1	0	0	0	兼0
		アスレティックトレーニング論(基礎Ⅰ)B	2後	2		○			0	0	0	0	0	兼1
		アスレティックトレーニング論(基礎Ⅱ)A	2前	2		○			0	1	0	0	0	兼0
		アスレティックトレーニング論(基礎Ⅱ)B	2後	2		○			0	0	0	0	0	兼1
		アスレティックトレーニング論(応用Ⅰ)A	3前	2		○			0	1	0	0	0	兼0
		アスレティックトレーニング論(応用Ⅰ)B	3後	2		○			0	1	0	0	0	兼0
		アスレティックトレーニング論(応用Ⅱ)A	3前	2		○			0	0	0	0	0	兼1
		アスレティックトレーニング論(応用Ⅱ)B	3後	2		○			0	0	0	0	0	兼1
		アスレティックトレーニング論(総合Ⅰ)	3後	2		○			0	0	0	0	0	兼2
		アスレティックトレーニング論(総合Ⅱ)	3後	2		○			0	1	0	0	0	兼1
		コンディショニング論	3	2		○			0	1	0	1	0	兼0
		教育原理	1	2		○			0	0	0	0	0	兼2
		体育科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼3
		保健科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼2
		教育心理学	2	2		○			0	0	0	0	0	兼2
		道徳教育の研究	2	2		○			1	0	0	0	0	兼1
		特別活動の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	兼3
		スポーツ行政	2	2		○			0	0	0	0	0	兼2
		学習指導論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼2
		教師論	3	2		○			1	0	0	0	0	兼0
		教育経営	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
		生徒指導論(進路指導を含む)	3	2		○			0	0	0	0	0	兼3
		教育課程論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
		教育カウンセリング	3	2		○			0	0	0	0	0	兼3
小計(24科目)	—	0	48	0	—	—	1	1	0	1	0	兼27		
選択2	コーチング演習	3	2			○		0	0	0	0	0	兼3	
	コンディショニング演習	4	2			○		0	0	0	1	0	兼0	
	パフォーマンス分析演習	4	2			○		0	1	0	0	0	兼2	
	アスレティックトレーナー実習(基礎)	2	2				○	0	1	0	1	0	兼3	
	アスレティックトレーナー実習(応用)	3	2				○	0	1	0	1	0	兼2	
	アスレティックトレーナー実習(総合)	4	2				○	0	1	0	1	0	兼1	
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	0	2	0	1	0	兼6		
選択3	競技力向上実践プロジェクトA	2通	2			○		1	0	0	0	0	兼1	
	競技力向上実践プロジェクトB	3通	2			○		1	0	0	0	0	兼1	
	競技力向上実践プロジェクトC	4通	2			○		1	0	0	0	0	兼1	
	競技力向上サポートプロジェクトA	2通	2			○		1	0	0	0	0	兼1	
	競技力向上サポートプロジェクトB	3通	2			○		1	0	0	0	0	兼1	
	競技力向上サポートプロジェクトC	4通	2			○		1	0	0	0	0	兼1	
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	1	0	0	0	0	兼1		
自由科目	自由	体育科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	兼4
		保健科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	兼3
		事前事後の指導	4		1		○		0	0	0	0	0	兼8
		教育実習	4		4		○		0	0	0	0	0	兼1
		教職実践演習	4		2		○		0	0	0	0	0	兼8
小計(5科目)	—	0	0	9	—	—	0	0	0	0	0	兼12		
合計(170科目)			—	55	198	30	—	—	19	16	0	7	0	兼197
学士又は称号		学士(体育学)			学位又は学科の分野			体育関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p><学部共通>の【言語表現科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択1から8単位以上、選択2から8単位以上、【総合科目】から必修科目2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、【キャリアデザイン科目】から必修科目2単位、【理論系科目】から必修科目12単位、【実践系科目】必修科目から13単位、選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から2単位以上、小計59単位以上修得し、<学科共通>の【基幹科目】から必修科目10単位、【展開科目】選択1から12単位以上、選択2から4単位以上、選択3から3単位以上、小計29単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて88単位を修得するほか、次の2つの領域のいずれかから36単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて124単位以上修得すること。</p> <p><スポーツ教育領域>の【基幹科目】から必修科目4単位、【展開科目】選択1から1単位以上、選択2から22単位以上、選択3から3単位以上、選択4から2単位以上、選択5から2単位以上、選択6から2単位以上、合わせて36単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p> <p><競技スポーツ領域>の【基幹科目】から必修科目6単位、【展開科目】選択1から20単位以上、選択2から4単位以上、選択3から6単位以上、合わせて36単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>							1学年の学期区分		2学期					
							1学期の授業時間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

教育課程等の概要

(体育学部健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学部共通科目	言語表現科目	必修1	国語表現Ⅰ	1	1				○			0	1	0	0	0	兼4	
			国語表現Ⅱ	2	1				○			0	0	0	0	0	兼2	
			基礎英語Ⅰ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼6	
			基礎英語Ⅱ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼6	
			英語コミュニケーションⅠ	2	1				○			0	0	0	0	0	兼4	
			英語コミュニケーションⅡ	2	1				○			0	0	0	0	0	兼4	
			小計(6科目)	—	6	0	0			—		0	1	0	0	0	兼16	
	教養科目	選択1	哲学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			法学(日本国憲法を含む)	1		2			○			1	0	0	0	0	兼0	
			心理学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			芸術(音楽)	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			生命科学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			情報処理(情報機器の操作を含む)	1		2			○			0	0	0	0	0	兼4	
			小計(6科目)	—	0	12	0			—		1	0	0	0	0	兼8	
	選択2	文学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		社会学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		歴史学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		経済学	2		2			○			0	1	0	0	0	兼0		
		統計学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		エコロジー	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		小計(6科目)	—	0	12	0			—		0	1	0	0	0	兼5		
	外国語科目	自由1	海外語学研修	1			2			○		0	0	0	0	0	兼0	集中
			応用英語	2通			2			○		1	0	0	0	0	兼1	
			ドイツ語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼2	
中国語			2通			2			○		0	0	0	0	0	兼1		
コア語			2通			2			○		0	0	0	0	0	兼1		
小計(5科目)			—	0	0	10			—		1	0	0	0	0	兼5		
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		小計(1科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	兼1		
	自由1	体育研究発表実演会	1			1				○		0	0	0	0	兼1	集中	
		小計(1科目)	—	0	0	1			—		0	0	0	0	0	兼1		
	選択1	海浜実習	2		1					○		0	0	0	0	兼2	集中	
		キャンプ実習	2		1					○		0	0	0	0	兼1	集中	
		小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	兼3		
	選択2	スキー実習	3		1					○		0	0	0	0	兼1	集中	
		スケート実習	3		1					○		0	0	0	0	兼1	集中	
		小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	兼2		
	キャリアデザイン科目	必修1	キャリアデザインA	2	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
小計(1科目)			—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	兼1		
自由1		キャリアデザインB	3			2			○			0	0	0	0	兼1		
		インターンシップ(事前事後指導を含む)	2			1				○		0	0	0	0	兼1	集中	
小計(2科目)	—	0	0	3			—		0	0	0	0	0	兼2				
専門教育科目	理論系科目	必修1	スポーツ研究A	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			スポーツ哲学	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			スポーツ史	2	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			機能解剖学	1	2				○			1	0	0	0	0	兼0	
			スポーツ生理学	2	2				○			1	0	0	0	0	兼0	
			野外活動論	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			小計(6科目)	—	12	0	0			—		2	0	0	0	0	兼4	

別記様式第2号(その2の1)

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学部 共通 科目	専 門 教 育 科 目	実 践 系 科 目	必修1	スポーツ研究B	2	1					○	2	1	0	0	0	兼1
				スポーツ研究C	3	2					○	14	5	0	1	0	兼1
				スポーツ研究D(卒業研究を含む)	4	4					○	14	5	0	1	0	兼1
				小計(3科目)	—	7	0	0	—	—	—	14	5	0	1	0	兼73
			必修2	運動方法・体づくり運動(体操)	1	1					○	0	0	0	0	0	兼4
				運動方法・器械運動	1	1					○	0	0	0	0	0	兼5
				運動方法・陸上競技	1	1					○	0	0	0	0	0	兼3
				運動方法・水泳	1	1					○	0	0	0	0	0	兼6 共同
				運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	1					○	0	0	0	0	0	兼4
				運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1	1					○	0	0	0	0	0	兼4
				小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼26
			選択1	運動方法・バスケットボール	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2
				運動方法・ハンドボール	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2
				運動方法・サッカー	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2
				運動方法・ラグビー	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1 共同
				小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7
			選択2	運動方法・バレーボール	1		1				○	0	0	0	0	0	兼3
				運動方法・テニス	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1
				運動方法・卓球	1		1				○	0	0	0	0	0	兼1
				運動方法・バドミントン	1		1				○	0	0	0	0	0	兼3
				小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8
			選択3	運動方法・武道(柔道)	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2
				運動方法・武道(剣道)	1		1				○	0	0	0	0	0	兼3
				運動方法・武道(相撲)	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2
				運動方法・レスリング	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1
				小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
健康学科 共通科目	基幹科目 必修1	ヘルスプロモーション論	1	2			○			3	0	0	0	0	兼0	オムニバス
		社会福祉Ⅰ	1	2			○			0	1	0	0	0	兼0	
		健康管理学	3	2			○			1	0	0	0	0	兼0	オムニバス
		小計(3科目)	—	6	0	0	—			4	1	0	0	0	兼0	
	必修1	衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1	2			○			1	0	0	0	0	兼0	
		救急処置	3	2			○			1	0	0	0	0	兼1	
		労働生理	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		労働衛生	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		労働関係法規Ⅰ	4	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		労働関係法規Ⅱ	4	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		小計(6科目)	—	12	0	0	—			2	0	0	0	0	兼4	
	展開科目 選択1	発育発達論	1	2			○			1	0	0	0	0	兼0	
		スポーツ医学	2	2			○			1	0	0	0	0	兼1	オムニバス
		学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2	2			○			1	0	0	0	0	兼0	
		予防医学	2	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ	2	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		高齢者福祉と介護Ⅰ	2	2			○			0	1	0	0	0	兼0	
		アダプテッド・フィジカルアクティビティ	2	2			○			1	0	0	0	0	兼0	
		ソーシャルワーク概論A	2前	2			○			0	1	0	0	0	兼0	
		ソーシャルワーク概論B	2後	2			○			0	1	0	0	0	兼0	
		医学概論	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		学校安全(救急処置を含む)	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		臨床心理学(カウンセリングを含む)	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		社会保障A	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		児童・家庭福祉	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		障害福祉	3	2			○			1	0	0	0	0	兼0	
		地域福祉A	3	2			○			0	1	0	0	0	兼0	
		ソーシャルワークA	3	2			○			0	1	0	0	0	兼0	集中
		ソーシャルワークB	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	集中
		ソーシャルワークC	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1	集中
		ソーシャルワークD	3	2			○			0	1	0	0	0	兼0	集中
		臨床看護学(実習を含む)	3前	2			○			1	0	0	0	0	兼1	
		ヘルスカウンセリング	3後	2			○			0	0	0	0	0	兼1	
トレーニング学		2	2			○			1	0	0	0	0	兼0		
スポーツ栄養学(食品学を含む)		2	2			○			1	0	0	0	0	兼0		
テーピング理論(実習を含む)		2	2			○			0	0	0	0	0	兼1		
スポーツ社会学		3	2			○			0	0	0	0	0	兼1		
スポーツ経営管理学		3	2			○			0	0	0	0	0	兼1		
コーチング学		2	2			○			0	0	0	0	0	兼1		
スポーツバイオメカニクス	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1			
測定評価学	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1			
スポーツ心理学	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1			
人権教育	3	2			○			0	0	0	0	0	兼1			
小計(32科目)	—	0	64	0	—			7	2	0	0	0	兼17			
選択2	トレーニング実践演習	2		1			○		0	0	0	0	0	兼2		
	運動処方演習	2		1			○		0	0	0	0	0	兼1		
	エアロビックス	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1		
小計(3科目)	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼4			

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ヘルスプロモーション 領域科目	基幹科目	必修1	精神保健	2		2		○			0	0	0	0	0	兼1	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
	展開科目	選択1	養護概説(養護教諭の職務を含む)	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			精神医学	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			基礎看護学	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			免疫学	3前		2		○			1	0	0	0	0	0	兼0
			学校保健Ⅱ(保健室経営を含む)	3		2		○			1	0	0	0	0	0	兼0
			栄養学(学校給食を含む)	3		2		○			1	0	0	0	0	0	兼0
			微生物学	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1 集中
			思春期保健	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1 集中
			教育原理	1		2		○			0	1	0	0	0	0	兼0
			教育心理学	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			体育科教育法	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			保健科教育法	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			道徳教育の研究	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			特別活動の研究	2		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			教師論(養護)	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			教師論	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			教育経営	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			学習指導論	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			生徒指導論(進路指導を含む)	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
			教育課程論	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1
	教育カウンセリング*	3		2		○			0	0	0	0	0	0	兼1		
	小計(21科目)	—	0	42	0	—	3	1	0	0	0	0	0	0	兼16		
	展開科目	選択2	衛生学・公衆衛生学実験実習	3		1				○	0	0	0	0	0	0	兼1
			体育科教育実践法	3		1			○	0	0	0	0	0	0	0	兼1
			保健科教育実践法	3		1			○	0	0	0	0	0	0	0	兼1
			小計(3科目)	—	0	3	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3
	自由科目	自由	看護臨床実習	3			5			○	2	0	0	0	0	0	兼1 共同・集中
			事前事後の指導	4			1		○	1	0	0	0	0	0	0	兼1
養護実習(事前事後の指導を含む)			4			5		○	1	0	0	0	0	0	0	兼0 集中	
教職実践演習(養護)			4			2		○	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
教育実習			4			4		○	0	0	0	0	0	0	0	兼1 集中	
教職実践演習			4			2		○	1	0	0	0	0	0	0	兼1	
小計(6科目)			—	0	0	19	—	4	0	0	0	0	0	0	0	兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
ソーシャルサポート 領域科目	基幹科目 必修1	社会福祉Ⅱ	3	2		○			0	1	0	0	0	兼0	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	1	0	0	0	兼0	
	展開科目	選択1	地域福祉B	3	2		○			0	1	0	0	0	兼0
			高齢者福祉と介護Ⅱ	3	2		○			0	1	0	0	0	兼0
			社会保障B	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			生活保護	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			社会福祉調査	3	2		○			0	1	0	0	0	兼0
			福祉経営	4	2		○			0	1	0	0	0	兼0
			雇用政策	4	1		○			1	0	0	0	0	兼0 集中
			権利擁護と成年後見	4	2		○			0	0	0	0	0	兼1 集中
			司法福祉	4	1		○			1	0	0	0	0	兼0 集中
			社会福祉行政と福祉計画	4	2		○			1	0	0	0	0	兼0 集中
			医療福祉	4	2		○			1	0	0	0	0	兼0 集中
			教育原理	1	2					0	1	0	0	0	兼0
			教育心理学	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			体育科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			保健科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			道徳教育の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			特別活動の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教師論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			学習指導論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教育経営	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			生徒指導論(進路指導を含む)	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教育課程論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教育カウンセリング	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			小計(23科目)	—	0	44	0	—		1	3	0	0	0	兼14
	展開科目	選択2	相談援助演習Ⅰ	2	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同
			相談援助演習ⅡA	3	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同
			相談援助演習ⅡB	3	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同
			相談援助演習Ⅲ	4	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同・集中
			相談援助演習Ⅳ	4	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同・集中
			相談援助実習指導Ⅰ	3	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同・集中
			相談援助実習指導Ⅱ	4	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同・集中
相談援助実習指導Ⅲ			4	1			○		0	2	0	0	0	兼0 共同・集中	
相談援助実習			4	6				○	0	2	0	0	0	兼0 共同・集中	
体育科教育実践法			3	1			○		0	0	0	0	0	兼1	
保健科教育実践法			3	1			○		0	0	0	0	0	兼1	
				小計(11科目)	—	0	16	0	—		0	2	0	0	0
自由科目	自由	事前事後の指導	4			1		○		1	0	0	0	0	兼1
		教育実習	4			4		○		0	0	0	0	0	兼1 集中
		教職実践演習	4			2		○		1	0	0	0	0	兼1
		小計(3科目)	—	0	0	7	—		1	0	0	0	0	兼2	
合計(172科目)			—	57	212	40	—		13	5	0	0	0	兼129	
学士又は称号		学士(体育学)			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p><学部共通>の【言語表現科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択1から8単位以上、選択2から8単位以上、【総合科目】から必修科目2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、【キャリアデザイン科目】から必修科目2単位、【理論系科目】から必修科目12単位、【実践系科目】必修科目から13単位、選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から2単位以上、小計59単位以上修得し、<学部共通>の【基幹科目】から必修科目6単位、【展開科目】必修科目12単位、選択1から20単位以上、選択2から2単位以上、小計40単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて99単位を修得するほか、次の2つの領域のいずれかから25単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて124単位以上修得すること。</p> <p><ヘルスプロモーション領域>の【基幹科目】から必修科目2単位、【展開科目】選択1から22単位以上、選択2から1単位以上、合わせて25単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p> <p><ソーシャルサポート領域>の【基幹科目】から必修科目2単位、【展開科目】選択1から22単位以上、選択2から1単位以上、合わせて25単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>							1学年の学期区分		2 学期						
							1学期の授業時間		1 5 週						
							1時限の授業時間		9 0 分						

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
学部共通科目	言語表現科目	必修1	国語表現Ⅰ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼1		
		国語表現Ⅱ	2	1				○			0	0	0	0	0	0	兼2		
		基礎英語Ⅰ	1	1				○			0	0	0	0	0	0	兼3		
		基礎英語Ⅱ	1	1				○			0	0	0	0	0	0	兼3		
		英語コミュニケーションⅠ	2	1				○			0	0	0	0	0	0	兼3		
		英語コミュニケーションⅡ	2	1				○			0	0	0	0	0	0	兼3		
		小計(6科目)	—	6	0	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼6	
	教養科目	選択1	哲学	1		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			法学(日本国憲法を含む)	1		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			心理学	1		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			芸術(音楽)	1		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			生命科学	1		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			情報処理(情報機器の操作を含む)	1		2			○			0	0	0	0	0	0	兼2	
			小計(6科目)	—	0	12	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼7
	選択2	文学	2		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		社会学	2		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		歴史学	2		2			○			0	1	0	0	0	0	兼0		
		経済学	2		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		統計学	2		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		エコロジー	2		2			○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		小計(6科目)	—	0	12	0			—		0	1	0	0	0	0	0	兼5	
	外国語科目	自由1	海外語学研修	1			2			○		0	0	0	0	0	0	兼1	集中
			応用英語	2通			2			○		0	0	0	0	0	0	兼2	
			ドイツ語	2通			2			○		0	0	0	0	0	0	兼2	
			中国語	2通			2			○		0	0	0	0	0	0	兼1	
			コア語	2通			2			○		0	0	0	0	0	0	兼1	
			小計(5科目)	—	0	0	10			—		0	0	0	0	0	0	0	兼7
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1	2				○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		小計(1科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	0	兼1		
	自由1	体育研究発表実演会	1			1				○		1	0	0	0	0	0	兼0	集中
		小計(1科目)	—	0	0	1			—		1	0	0	0	0	0	0	兼0	
	選択1	海浜実習	2		1					○		0	0	0	0	0	0	兼2	集中
		キャンプ実習	2		1					○		0	0	0	0	0	0	兼1	集中
		小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼3	
	選択2	スキー実習	3		1					○		0	0	0	0	0	0	兼1	集中
		スケート実習	3		1					○		0	0	0	0	0	0	兼1	集中
		小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼2	
	キャリアデザイン科目	必修1	キャリアデザインA	2	2				○			0	0	0	0	0	0	兼1	
小計(1科目)			—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	0	兼1		
自由1		キャリアデザインB	3			2			○			0	0	0	0	0	0	兼1	
	インターンシップ(事前事後指導を含む)	2			1				○		0	0	0	0	0	0	兼1	集中	
小計(2科目)	—	0	0	3			—		0	0	0	0	0	0	0	兼2			
専門教育科目	理論系科目	必修1	スポーツ研究A	1	2				○			0	0	0	0	0	0	兼1	
		スポーツ哲学	1	2				○			0	1	0	0	0	0	0	兼0	
		スポーツ史	2	2				○			0	0	0	0	0	0	0	兼1	
		機能解剖学	1	2				○			0	0	0	0	0	0	0	兼1	
		スポーツ生理学	2	2				○			0	0	0	0	0	0	0	兼1	
		野外活動論	1	2				○			0	0	0	0	0	0	0	兼1	
		小計(6科目)	—	12	0	0			—		0	1	0	0	0	0	0	兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部 共通科目	専門 教育科目	必修1	スポーツ研究B	2	1					0	0	0	0	0	兼2	
			スポーツ研究C	3	2				○	8	3	0	4	0	兼78	
			スポーツ研究D(卒業研究を含む)	4	4				○	8	3	0	4	0	兼78	
			小計(3科目)	—	7	0	0	—	—	8	3	0	4	0	兼78	
	実践系科目	必修2	運動方法・体づくり運動(体操)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
			運動方法・器械運動	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
			運動方法・陸上競技	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
			運動方法・水泳	1	1				○	0	0	0	0	0	兼5	
			運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
			運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1	1				○	1	0	0	1	0	兼0	
	小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	1	0	0	1	0	兼13			
	選択1	運動方法・バスケットボール	1		1				○	0	0	0	0	0	兼3	
		運動方法・ハンドボール	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・サッカー	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・ラグビー	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8		
	選択2	運動方法・バレーボール	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・テニス	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		運動方法・卓球	1		1				○	0	0	0	0	0	兼3	
		運動方法・バドミントン	1		1				○	0	0	0	0	0	兼3	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9		
	選択3	運動方法・武道(柔道)	1		1				○	1	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・武道(剣道)	1		1				○	1	0	0	1	0	兼2	
		運動方法・武道(相撲)	1		1				○	0	0	0	0	0	兼2	
運動方法・レスリング		2		1				○	0	0	0	0	0	兼1		
小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	2	0	0	1	0	0	兼7			
基幹科目	必修1	礼法	1	1				○	1	0	0	0	0	0	兼2	
		武道概論(武道文化史を含む)	2	2				○	1	0	0	0	0	0	兼0	
		武道実技(弓道)	2	1					○	0	0	0	0	0	兼2	
		伝統文化交流実習	2	1					○	1	0	0	0	0	兼0	
		武道論(倫理)	3	2					○	1	0	0	0	0	兼0	
		スポーツ人類学	3	2					○	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(6科目)	—	9	0	0	—	—	3	0	0	0	0	0	兼4		
	展開科目	選択1	異文化コミュニケーション(外国事情)	2		2				○	0	0	0	0	0	兼1
			芸道論	4		2				○	0	0	0	0	0	兼1
			発育発達論	1		2				○	0	0	0	0	0	兼1
衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)			1		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
スポーツ行政			2		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
トレーニング学			2		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
コーチング学			2		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
スポーツ栄養学(食品学を含む)			2		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
スポーツ医学			2		2				○	0	0	0	0	0	兼2	
学校保健(小児保健・精神保健を含む)			2		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
テーピング理論(実習を含む)			2		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
スポーツ社会学			3		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
スポーツ経営管理学			3		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
生涯スポーツ論			1		2				○	0	0	0	0	0	兼1	
スポーツバイオメカニクス	3		2				○	0	0	0	0	0	兼1			
測定評価学	3		2				○	0	0	0	0	0	兼1			
スポーツ心理学	3		2				○	0	0	0	0	0	兼1			
学校安全(救急処置を含む)	3		2				○	0	0	0	0	0	兼1			
健康管理学	3		2				○	0	0	0	0	0	兼1			
人権教育	3		2				○	0	0	0	0	0	兼1			
小計(20科目)	—	0	40	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼21			
武道学科 共通科目	選択2	専門運動方法(ゴルフ)	4		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		エアロビクタンズ	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		専門運動方法(トランポリン)	2		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		専門運動方法(アーチェリー)	4		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		スポーツ実践指導法・レスリング	4		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		スポーツ実践指導法・テニス	4		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		ローオーガナイズトスポーツ	4		1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		トレーニング実践演習	2		1				○	0	0	0	0	0	兼2	
小計(8科目)	—	0	8	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9			

科目 区分	授業科目の名称		配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
武道教育 領域科目	基幹科目	必修1	武道教育論	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1
		武道技術論(柔剣相空少薙合弓)	3		2			○			2	0	0	1	0	兼5	
		小計(2科目)	—	0	4	0	—	2	0	0	1	0	兼6				
	展開科目	選択1	武道史各論A	2		2			○			1	0	0	0	0	兼0
			武道史各論B	2		2			○			0	0	0	1	0	兼0
			小計(2科目)	—	0	4	0	—	1	0	0	1	0	兼0			
		選択2	武道用具論	3		2			○			2	0	0	1	0	兼0
	武道科教育法		3		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
	武道書籍講読		4		2			○			1	0	0	0	0	兼0	
	小計(3科目)		—	0	6	0	—	2	0	0	1	0	兼1				
	選択3	教育原理	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		教育心理学	2		2			○			1	0	0	0	0	兼0	
		体育科教育法	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		保健科教育法	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		道德教育の研究	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		特別活動の研究	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		教師論	3		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		教育経営	3		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		学習指導論	3		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		生徒指導論(進路指導を含む)	3		2			○			0	1	0	0	0	兼0	
		教育課程論	3		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
		教育カウンセリング*	3		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
	小計(12科目)	—	0	24	0	—	1	1	0	0	0	兼10					
	必修1	専攻武道実技 I (柔剣相空少薙合弓)	1通		2					○	2	0	0	1	0	兼5	
		専攻武道実技 II (柔剣相空少薙合弓)	2通		2					○	1	0	0	1	0	兼6	
		専攻武道実技 III (柔剣相空少薙合弓)	3通		2					○	2	0	0	0	0	兼6	
		専攻武道実技 IV (柔剣相空少薙合弓)	4通		2					○	0	0	0	1	0	兼7	
		専攻武道実技 V (柔剣相空少薙合弓)	4通		2					○	2	0	0	0	0	兼6	
		小計(5科目)	—	0	10	0	—	3	0	0	2	0	兼13				
	選択4	体育科教育実践法	3		1				○		0	0	0	0	0	兼1	
保健科教育実践法		3		1				○		0	0	0	0	0	兼1		
小計(2科目)		—	0	0	0	—	0	0	0	0	0	兼2					
自由科目	自由	事前事後の指導	4			1		○		1	0	0	0	0	兼2	集中	
		教育実習	4			4		○		1	0	0	0	0	兼0		
		教職実践演習	4			2		○		1	0	0	0	0	兼2		
		小計(3科目)	—	0	0	7	—	2	0	0	0	0	兼2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
伝統芸能領域科目	基幹科目	必修1	比較舞踊学	2	2		○			1	0	0	0	0	兼0	集中 集中 集中	
			伝統芸能論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1		
			小計(2科目)	—	0	4	0	—			1	0	0	0	0		兼1
	必修1	伝統芸能史	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		舞踊創作論(作品論を含む)	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		芸能稽古論(能舞踊)	4	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		芸能鑑賞論	4	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		身体論	4	2		○			1	0	0	0	0	0	兼0		
		小計(5科目)	—	0	10	0	—			1	0	0	0	0	兼4		
	展開科目	必修2	伝統芸能実技1	1	1				○	0	0	0	0	0	0		兼1
			伝統芸能実技2	1	1				○	0	0	0	1	0	0		兼0
			伝統芸能実技3	2	1				○	0	0	0	0	0	0		兼1
			伝統芸能実技4	2	1				○	0	0	0	0	0	0		兼1
			伝統芸能実技5	3	1				○	0	0	0	0	0	0		兼1
			伝統芸能実技6	3	1				○	0	0	0	1	0	0		兼0
			伝統芸能実習Ⅰ	2	1				○	0	0	0	0	0	0		兼1
			伝統芸能実習Ⅱ	3	1				○	0	0	0	1	0	0		兼0
			比較舞踊学実習	3	1				○	1	0	0	0	0	0		兼0
			武道実技(形)	3	1				○	1	0	0	0	0	0		兼0
	小計(10科目)	—	0	10	0	—			2	0	0	1	0	兼4			
	選択1	スポーツ実践指導法・柔道	3	1				○	0	0	0	0	0	0	兼1		
		スポーツ実践指導法・剣道	3	1				○	0	0	0	1	0	0	兼1		
		スポーツ実践指導法・相撲	3	1				○	1	0	0	1	0	0	兼0		
		小計(3科目)	—	0	3	0	—			1	0	0	2	0	兼2		
	自由科目	自由	教育原理	1			2	○		0	0	0	0	0	0		兼1
			教育心理学	2			2	○		1	0	0	0	0	0		兼0
			体育科教育法	2			2	○		0	0	0	0	0	0		兼1
			保健科教育法	2			2	○		0	0	0	0	0	0		兼1
			道德教育の研究	2			2	○		0	0	0	0	0	0		兼1
			特別活動の研究	2			2	○		0	0	0	0	0	0		兼1
教師論			3			2	○		0	0	0	0	0	0	兼1		
教育経営			3			2	○		0	0	0	0	0	0	兼1		
生徒指導論(進路指導を含む)			3			2	○		0	1	0	0	0	0	兼0		
教育課程論			3			2	○		0	0	0	0	0	0	兼1		
教育カウンセリング			3			2	○		0	0	0	0	0	0	兼1		
体育科教育実践法			3			1		○	0	0	0	0	0	0	兼1		
保健科教育実践法			3			1		○	0	0	0	0	0	0	兼1		
学習指導論			3			2	○		0	0	0	0	0	0	兼1		
事前事後の指導			4			1		○	1	0	0	0	0	0	兼2		
教育実習			4			4		○	1	0	0	0	0	0	兼0		
教職実践演習			4			2		○	1	0	0	0	0	0	兼2		
小計(17科目)	—	0	0	33	—			2	1	0	0	0	兼10				
合計(159科目)			—	82	125	54	—		8	3	0	4	0	兼128			
学士又は称号		学士(体育学)			学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
<p><学部共通>の【言語表現科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択1から8単位以上、選択2から8単位以上、【総合科目】から必修科目2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、【キャリアデザイン科目】から必修科目2単位、【理論系科目】から必修科目12単位、【実践系科目】必修科目から13単位、選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から2単位以上、小計59単位以上修得し、<学部共通>の【基幹科目】から必修科目9単位、【展開科目】選択1から26単位以上、選択2から5単位以上、小計40単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて99単位を修得するほか、次の2つの領域のいずれかから25単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて124単位以上修得すること。</p>							1学年の学期区分	2学期									
<p><武道教育領域>の【基幹科目】から必修科目4単位、【展開科目】選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から6単位以上、選択4から1単位以上、必修科目10単位、合わせて25単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>							1学期の授業時間	15週									
<p><伝統芸能領域>の【基幹科目】から必修科目4単位、【展開科目】から必修科目20単位、選択1から1単位以上、合わせて25単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>							1時限の授業時間	90分									

教育課程等の概要

(体育学部社会体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学部共通科目	言語表現科目	必修1	国語表現Ⅰ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼2	
			国語表現Ⅱ	2	1				○			0	0	0	0	0	兼2	
			基礎英語Ⅰ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼5	
			基礎英語Ⅱ	1	1				○			0	0	0	0	0	兼5	
			英語コミュニケーションⅠ	2	1				○			0	0	0	0	0	兼4	
			英語コミュニケーションⅡ	2	1				○			0	0	0	0	0	兼4	
			小計(6科目)	—	6	0	0			—		0	0	0	0	0	兼12	
	教養科目	選択1	哲学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			法学(日本国憲法を含む)	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			心理学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			芸術(音楽)	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			生命科学	1		2			○			0	0	0	0	0	兼1	
			情報処理(情報機器の操作を含む)	1		2			○			0	1	0	0	0	兼1	
			小計(6科目)	—	0	12	0			—		0	1	0	0	0	兼6	
	選択2	文学	2		2			○			1	0	0	0	0	兼0		
		社会学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		歴史学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		経済学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		統計学	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		エコロジー	2		2			○			0	0	0	0	0	兼1		
		小計(6科目)	—	0	12	0			—		1	0	0	0	0	兼5		
	外国語科目	自由1	海外語学研修	1			2			○		0	0	0	0	0	兼0	集中
			応用英語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼2	
			ドイツ語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼2	
			中国語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼1	
			コア語	2通			2			○		0	0	0	0	0	兼1	
			小計(5科目)	—	0	0	10			—		0	0	0	0	0	兼6	
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		小計(1科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	兼1		
	自由1	体育研究発表実演会	1			1				○		0	0	0	0	兼1	集中	
		小計(1科目)	—	0	0	1			—		0	0	0	0	0	兼1		
	選択1	海浜実習	2		1					○		0	0	0	0	兼2	集中	
		キャンプ実習	2		1					○		0	0	0	0	兼1	集中	
		小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	兼3		
	選択2	スキー実習	3		1					○		0	1	0	0	兼0	集中	
		スケート実習	3		1					○		0	1	0	0	兼0	集中	
		小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	2	0	0	0	兼0		
	キャリアデザイン科目	必修1	キャリアデザインA	2	2				○			0	0	0	0	0	兼1	
			小計(1科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	兼1	
自由1		キャリアデザインB	3			2			○			0	0	0	0	兼1		
		インターンシップ(事前事後指導を含む)	2			1				○		0	0	0	0	兼1	集中	
小計(2科目)	—	0	0	3			—		0	0	0	0	0	兼2				
専門教育科目	必修1	スポーツ研究A	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		スポーツ哲学	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		スポーツ史	2	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		機能解剖学	1	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		スポーツ生理学	2	2				○			0	0	0	0	0	兼1		
		野外活動論	1	2				○			0	1	0	0	0	兼0		
		小計(6科目)	—	12	0	0			—		0	1	0	0	0	兼5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 専門教育科目 実践系科目	必修1	スポーツ研究B	2	1					0	0	0	0	0	兼1	
		スポーツ研究C	3通	2				○	8	6	0	3	0	兼76	
		スポーツ研究D(卒業研究を含む)	4通	4				○	8	6	0	3	0	兼76	
		小計(3科目)	—	7	0	0	—		8	6	0	3	0	兼76	
	必修2	運動方法・体づくり運動(体操)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼3	
		運動方法・器械運動	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・陸上競技	1	1				○	1	0	0	0	0	兼1	
		運動方法・水泳	1	1				○	0	0	0	0	0	兼6 共同	
		運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	1				○	0	0	0	1	0	兼2	
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼3	
	小計(6科目)	—	6	0	0	—		1	0	0	1	0	兼17		
	選択1	運動方法・バスケットボール	1	1				○	2	0	0	0	0	兼1	
		運動方法・ハンドボール	1	1				○	0	0	0	0	0	兼3	
		運動方法・サッカー	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・ラグビー	2	1				○	0	0	0	0	0	兼1 共同	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—		2	0	0	0	0	兼7		
	選択2	運動方法・バレーボール	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・テニス	2	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・卓球	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・バドミントン	1	1				○	0	0	0	0	0	兼3	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼9		
	選択3	運動方法・武道(柔道)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・武道(剣道)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼4	
		運動方法・武道(相撲)	1	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		運動方法・レスリング	2	1				○	0	0	0	0	0	兼1	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼9		
	社会体育学科 共通科目	必修1	生涯スポーツ論	1	2				○	1	0	0	0	0	兼0
			野外教育環境論	1	2				○	0	0	0	0	0	兼1
生涯学習概論 I			1	2				○	1	0	0	0	0	兼0	
スポーツマネジメント論			1	2				○	0	0	0	1	0	兼0	
小計(4科目)		—	8	0	0	—		2	0	0	1	0	兼1		
展開科目		選択1	スポーツ社会学	3	2				○	1	0	0	0	0	兼0
			発育発達論	1	2				○	0	0	0	0	0	兼1
			トレーニング学	2	2				○	0	0	0	0	0	兼1
			スポーツ栄養学(食品学を含む)	2	2				○	0	0	0	0	0	兼1
			スポーツ医学	2	2				○	0	0	0	0	0	兼2 オムニバス
			テーピング理論(実習を含む)	2	2				○	0	0	0	0	0	兼1
			スポーツ心理学	3	2				○	0	0	0	0	0	兼1
			衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1	2				○	0	0	0	0	0	兼1
		小計(8科目)	—	0	16	0	—		1	0	0	0	0	兼8	
		選択2	救急処置実習	2	1				○	0	1	0	0	0	兼0
トレーニング実践演習			2	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
小計(2科目)		—	0	2	0	—		0	1	0	0	0	兼2		
必修1		レクリエーション実技	2	1				○	0	1	0	0	0	兼0	
		小計(1科目)	—	1	0	0	—		0	1	0	0	0	兼0	
選択3		専門運動方法(アーチェリー)	4	1				○	2	0	0	0	0	兼0	
		エアロビックダンス	2	1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		グループレクリエーション	3	1				○	0	1	0	0	0	兼0	
		小計(3科目)	—	0	3	0	—		2	1	0	0	0	兼1	
選択4		スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)	3	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		スポーツ実践指導法・陸上競技	3	1				○	0	0	0	0	0	兼1	
		スポーツ実践指導法・バレーボール	3	1				○	0	0	0	0	0	兼2	
		スポーツ実践指導法・バスケットボール	3	1				○	1	0	0	0	0	兼2	
小計(4科目)		—	0	4	0	—		1	0	0	0	0	兼7		
選択5	マンスポーツ理論・実習	2	3				○	0	1	0	0	0	兼0 ※実習含む		
	ウォーターセーフティ理論・実習	3	3				○	0	1	0	0	0	兼0 ※実習含む		
	キャンプ理論・実習	3	3				○	0	0	0	0	0	兼1 ※実習含む		
	ゴルフ理論・実習	3	3				○	0	1	0	0	0	兼0 ※実習含む		
	スキー理論・実習	3	3				○	0	1	0	0	0	兼0 ※実習含む		
	スケート理論・実習	3	3				○	0	1	0	0	0	兼0 ※実習含む		
小計(6科目)	—	0	18	0	—		0	4	0	0	0	兼1			

科目 区分	授業科目の名称		配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
生涯スポーツ 領域科目	基幹科目	必修1	レクリエーション概論	2	2		○			1	0	0	0	0	兼0		
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		1	0	0	0	0	0	兼0		
	選択1	障害者スポーツ論Ⅰ	2	2		○			1	0	0	0	0	0	兼0		
		障害者スポーツ論Ⅱ	3	2		○			1	0	0	0	0	0	兼0		
		野外活動と環境	3	2		○			0	1	0	0	0	0	兼0		
		野外活動における安全管理	3	2		○			0	1	0	0	0	0	兼0		
		野外活動計画論	3	2		○			0	1	0	0	0	0	兼0		
		障害概論	4	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1		
		小計(6科目)	—	0	12	0	—		1	2	0	0	0	0	兼1		
	展開科目	選択2	スポーツ経営管理学	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			教育原理	1	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			教育心理学	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			体育科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			保健科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			道德教育の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			特別活動の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			人権教育	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			測定評価学	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			学校安全(救急処置を含む)	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			学習指導論	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			教師論	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			教育経営	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
			教育課程論	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1	
	教育カウンセリング	3	2		○			0	0	0	0	0	0	兼1			
	小計(16科目)	—	0	32	0	—		0	0	0	0	0	0	兼15			
	選択3	野外活動実技	2	1				○	0	0	0	0	0	0	兼1		
		ネイチャーゲーム	3	1				○	0	0	0	0	0	0	兼1		
		障害者スポーツ実技Ⅰ	2	1				○	0	0	0	0	0	0	兼1		
		障害者スポーツ実技Ⅱ	3	1				○	0	0	0	0	0	0	兼1		
ローオーガナイズドスポーツ		4	1				○	0	1	0	0	0	0	兼0			
小計(5科目)	—	0	5	0	—		0	1	0	0	0	0	兼2				
自由科目	自由	障害者スポーツ現場実習	2		2			○	1	0	0	0	0	0	兼0	集中	
		レクリエーション現場実習	3		1			○	1	0	0	0	0	0	兼0	集中	
		野外活動現場実習	3		1			○	0	1	0	0	0	0	兼0	集中	
		体育科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	0	兼2		
		保健科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	0	兼2		
		生徒指導論(進路指導を含む)	3		2		○		0	0	0	0	0	0	兼1		
		教職実践演習	4		2		○		0	0	0	0	0	0	兼3		
		教育実習	4		4		○		0	0	0	0	0	0	兼1	集中	
		事前事後の指導	4		1		○		0	0	0	0	0	0	兼3		
小計(9科目)	—	0	0	15	—		1	1	0	0	0	0	兼9				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スポーツマネジメント 領域科目	基幹科目	必修1	スポーツマーケティング論	2	2		○			0	0	0	1	0	兼0
			小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	1	0	兼0
	展開科目	選択1	生涯学習概論Ⅱ	2	2		○			1	0	0	0	0	兼0
			スポーツ行政	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			社会教育計画Ⅰ	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			社会教育計画Ⅱ	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			現代の子どもと社会教育	3	2		○			1	0	0	0	0	兼0
			ボランティアと社会教育	3	2		○			1	0	0	0	0	兼0
			スポーツビジネス論	3	2		○			0	0	0	1	0	兼0
			経営管理論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			社会調査演習	3	2		○			1	0	0	0	0	兼0
			社会教育施設論	4	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			地域福祉と社会教育	4	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			スポーツメディア論	4	2		○			0	0	0	1	0	兼0
				小計(12科目)	—	0	24	0	—	2	0	0	1	0	兼4
	展開科目	選択2	スポーツ経営管理学	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教育原理	1	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教育心理学	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			体育科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			保健科教育法	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			道徳教育の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			特別活動の研究	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			人権教育	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			学校安全(救急処置を含む)	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			学習指導論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
			教師論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1
	教育経営	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	教育課程論	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1		
	教育カウンセリング	3	2		○			0	0	0	0	0	兼1		
			小計(15科目)	—	0	30	0	—	0	0	0	0	0	兼15	
展開科目	選択3	野外活動実技	2	1			○		0	0	0	0	0	兼1	
		ネイチャーゲーム	3	1			○		0	0	0	0	0	兼1	
			小計(2科目)	—	0	2	0	—	0	0	0	0	0	兼1	
自由科目	自由	野外活動における安全管理	3		2	○			0	1	0	0	0	兼0	
		社会教育演習Ⅰ(実習を含む)	3		2		○		1	0	0	0	0	兼1	
		社会教育演習Ⅱ(実習を含む)	3		2		○		1	0	0	0	0	兼1	
		体育科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	兼2	
		保健科教育実践法	3		1		○		0	0	0	0	0	兼2	
		生徒指導論(進路指導を含む)	3		2	○			0	0	0	0	0	兼1	
		教職実践演習	4		2		○		0	0	0	0	0	兼3	
		教育実習	4		4		○		0	0	0	0	0	兼1	
		事前事後の指導	4		1		○		0	0	0	0	0	兼3	
			小計(9科目)	—	0	0	17	—	1	1	0	0	0	兼11	
合計(163科目)			—	48	188	46	—		7	6	0	2	0	兼115	
学士又は称号		学士(体育学)			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p><学部共通>の【言語表現科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択1から8単位以上、選択2から8単位以上、【総合科目】から必修科目2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、【キャリアデザイン科目】から必修科目2単位、【理論系科目】から必修科目12単位、【実践系科目】必修科目から13単位、選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から2単位以上、小計59単位以上修得し、<学部共通>の【基幹科目】から必修科目8単位、【展開科目】必修科目1単位、選択1から12単位以上、選択2から1単位以上、選択3から2単位以上、選択4から2単位以上、選択5から6単位以上、小計32単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて91単位を修得するほか、次の2つの領域のいずれかから33単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて124単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p> <p><生涯スポーツ領域>の【基幹科目】から必修科目2単位、【展開科目】選択1から6単位以上、選択2から22単位以上、選択3から3単位以上、合わせて33単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p> <p><ソーシャルサポート領域>の【基幹科目】から必修科目2単位、【展開科目】選択1から8単位以上、選択2から22単位以上、選択3から1単位以上、合わせて33単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>							1学年の学期区分		2 学期						
							1学期の授業時間		1 5 週						
							1時限の授業時間		9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ文化学部武道教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通科目	国語表現Ⅰ	本講義は、「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」という四つの学修基礎力の向上と充実を図ることを目標とする。この四つの学修基礎力は、学生生活および社会生活における思考とコミュニケーションのありとあらゆる局面に関わる最も基本的な人間力とも呼ぶべきものであって、そのスキルアップは、的確な自己分析に基づき設定される明確な目的意識と日々の生活を律する自己管理術とあいまってこそ、充分に実現されるのである。的確な情報収集と分析能力に基づく豊かで知性的な表現力と正確にしてしかも個性的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。	
学部 共通科目	国語表現Ⅱ	本講義は、国語表現Ⅰを引き継ぐ形で「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」という四つの学修基礎力の向上と充実を図ることを目標とする。この四つの学修基礎力は、学生生活および社会生活における思考とコミュニケーションのありとあらゆる局面に関わる最も基本的な人間力とも呼ぶべきものであって、そのスキルアップは、的確な自己分析に基づき設定される明確な目的意識と日々の生活を律する自己管理術とあいまってこそ、充分に実現されるのである。的確な情報収集と分析能力に基づく豊かで知性的な表現力と正確にしてしかも個性的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。	
学部 共通科目	英語コミュニケーションⅠ	グローバル化が進む現代社会で、様々な文化的背景をもつ人々とコミュニケーションする能力を身に付けることは不可欠である。コミュニケーションの手段として、国際社会の共通語とも言える英語を習得することをその最初のステップとし、日常生活で使われる基礎的な英語表現に慣れ、実際に使うことができるようリスニングやスピーキングに重点をおいて学習する。ネイティブな英語を聴き取り、自分の伝えたいことをわかりやすい英語表現で伝えることと、これらの学習を通して異文化の価値観に触れることを目標とする。	
学部 共通科目	英語コミュニケーションⅡ	「英語コミュニケーションⅠ」に引き続き、国際化社会において様々な文化的背景をもつ人々とコミュニケーションするための手段としての英語を習得できるよう学習する。リスニングとスピーキングに加えて、伝えたいことを英語の文章で表現するために、単に英訳ではなく、伝えたいことの要点をまとめた上で、自身の英語表現を使って文章にするなど、自分の伝えたいことをわかりやすい英語表現で伝えることと、これらの学習を通して異文化の価値観に触れることを授業の目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	基礎英語 I	本講義は、家庭、職場、および海外にて他者と交流を行う上で必要な基礎的スキルを築きあげることで、コミュニケーション能力を向上させることに焦点をあてながら英語の基礎を構築する。最終的には、特に文法、用語、スピーキングやリスニングなど、あらゆるスキルを学修する。さらに、文章を一文から書きはじめ、英文によって表現する能力を併せて向上させる。これらのスキルを修得することで創造的に表現する術を体得する。	
学部共通科目 教養科目	基礎英語 II	本講義の目標は、家庭、職場、あるいは海外で交流を行う上で必要な基礎的スキルに焦点をあてることで学生の英語の土台を改善することである。最終的には、「基礎英語I」で発展させてきた言語スキルを復習し、強化し、より完全に発展させることによって、学生たちは、言語力を開花させ、多才な人間となることができる。また、学習スキルや学習スタイルや文化的差異についても考慮に入れつつ、レッスンの一部にペアワーク、グループワーク、またはフリーディスカッションなどを常に取り入れる。	
学部共通科目 教養科目	法学(日本国憲法)	本講義では、国家の法の中でも基本法である憲法を中心に、憲法とは何か、憲法は何を保障しているのか、といった問題意識から、(1)法的思考を身につけ憲法の理解を深めることができる、(2)日頃から憲法問題を見つけ憲法の視点から考えられるようになる、(3)人権・憲法の観点から問題解決を探ることができる、という到達目標に基づいて講義を進める。	
学部共通科目 教養科目	情報処理 (情報機器の操作を含む)	本講義は、情報の理論を背景とした演習を行いながら、クラウド型情報システムを手段として利用する第一ステップである。体育・スポーツ・健康に関する分野で指導的立場となることを将来の目標としている受講生を対象として、計算機の理論及びそれを利用した処理の基礎を習得し、この知識を応用できるようになるための素養を身につけることを目標とする。	
学部共通科目 教養科目	芸術	音楽とスポーツの接点を見だし、音・言葉・リズムに俊敏に反応できる感性を養う。その中でも運動能力にかかせないリズム感を集中的に鍛える。目標としては、複雑なリズムの習得に留まらず、いかなる時にも一定のテンポを保てるようにする。また発声メカニズムの理解・実践を通じてスポーツにも有効な呼吸法を習得する。鑑賞では各担当教官の生演奏に触れることにより、音が精神に及ぼす影響を体感し、その効果がいかにスポーツの現場や音楽療法に取り入れられているか、さらには時間・空間の共有という観点に立ち、生の臨場感を体験することの重要性について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	哲学	まず、「哲学」の基本的な考え方を学ぶ。次に、西洋の哲学者たちが人間のあり方をどのように捉えていたのか、また人間として生きていく上での問題をどのように考えていたのか、を見る。そして、こうした哲学者たちの思索を手がかりにしながら、今を生きる「私(自分自身)」を見つめ直し、「私」が生きている現場に思いを向けていく。本講義では、以上の過程を通じて、「私」自身、及び「私」が関わる人々や物事を、いろいろな角度から考えようとする意欲と思考力を高めることを目標とする。本講義で取り上げる主な「哲学者」と「キーワード」は、以下の通りである。古代ギリシア哲学：〈ソクラテス、アリストテレス〉「アルケー」、「ロゴス」、「対話」、「吟味」、「無知の知」。西洋近代哲学：〈デカルト、ロック〉「学問」、「良識(理性)」、「コギト・エルゴ・スム」、「白紙説」、「経験」。他にも、各担当者の判断により、さまざまな哲学者や哲学用語を紹介する予定である。	
学部共通科目 教養科目	心理学	心理学は「こころ」を直接研究するのではなく、ヒトと環境の中で生ずる現象、たとえば、意識(認知・記憶・思考・感情など)や行動(動作・表情・言語など)が研究対象となり、日常生活での漠然とした「こころ」という現象の中にどのような法則(性)が潜んでいるかを、科学的手法を用いて人間の本質(こころ)を実証しようとする学問である。到達目標は、心理学という学問の考え方や「自分とは何か?」を理解するための手掛かりを探求し発見することであり、さらに、心理学の諸理論や専門用語の理解を深め、スポーツ心理、教育心理、精神保健、カウンセリング、臨床心理学など専門心理学の基礎知識を修得する。	
学部共通科目 教養科目	社会学	将来社会に出てから、役に立つ教育、労働、ジェンダーなどのさまざまな社会問題を取り上げる。このような社会問題について基本的知識を得るとともに、文献資料から学ぶ方法を獲得する。	
学部共通科目 教養科目	経済学	本講義は、1.「景気の見方」では、景気に関するニュースで使われている言葉などを説明し、ニュースの意味がわかるようになる。2.「雇用と労働から見た現代日本」では、雇用・労働の問題について、特に「フリーター」という言葉に代表される非正規雇用の現状について理解する。3.「健康と社会」では、一人一人の「努力」によっては左右できない社会的・経済的要因がどのように健康を規定しているかについて説明し、健康を社会的に見ることの重要性を理解する。	
学部共通科目 教養科目	歴史学	歴史学は対象となる時代の資料を用いて、その時代の歴史を紡ぎ出す学問である。したがって、実証なき歴史、自己に都合の良い解釈は、ただの物語にすぎない。それ故に授業では、史料を読み解きながら、過去の出来事を復元していく。複数の史料をもとに、ひとつひとつ事実を構築し、それらを結びつけながら真相を究明していく。その作業を通して、物事を考察する力を習得し、自分の言葉で発信する力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	海外語学研修	本研修では、研修地での授業、ホストファミリーとの生活、地元の人達との交流などを通し、参加学生は英語の運用能力、特に聴解力と会話を磨き、英語圏(英国)の文化の理解を深める。渡英前と帰国後の特別授業を実施して、効果測定を行う。	
学部共通科目 教養科目	英会話	グローバル社会の到来によって、私たちの身の回りには多くの外国語が飛び交うようになった。その中でも英語は、国際語として非常にコミュニケーションの有効性を持つ言語である。そこで本授業では、英語によるコミュニケーションをより円滑に行うための基礎力を身に着けることを目的としている。具体的には、オーラルコミュニケーションを中心としながら、インターネットなどでのメールの交換ができるようなライティングの方法も併せて学修する。	
学部共通科目 教養科目	ドイツ語	初心者を対象にした基礎的なドイツ語のクラス設定する。ABC(アー・ペー・ツェー)から始めて、簡単な文章の読み書きや、初歩的な日常会話ができるようになることを目的とする。	
学部共通科目 教養科目	フランス語	フランス語を初めて学習する者を対象とし、基本的な会話や文法を習得することを目的とする。また、ヨーロッパの文化や現状を知り、フランスに対する理解を深めることも目的とする。	
学部共通科目 教養科目	中国語	中国語を初めて学習する者を対象とし、基本的な会話や文法を習得することを目的とする。また、中国の文化や現状を知り、中国に対する理解を深めることも目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	コリア語	ハングルの読み・書きができ、初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができることを目的とする。	
学部共通科目 総合科目	日体大の歴史 (日体伝統実習を含む)	日体大の歴史を紐解くことは近代日本の体育及びスポーツの歴史を語ることに通ずると言われる。設置者である学校法人日本体育大学は、「国民体育」の振興(今日の総合型地域スポーツクラブ)を目指して明治24(1891)年8月に創設され、以後時代のニーズに積極的に応えてきた。とりわけ東京オリンピックを契機に大きく羽ばたき、昭和40(1965)年代以降には、大学スポーツ界においてめざましい活躍をみせてくれた。また同時に、多くの卒業生が全国各地の中・高等学校の保健体育教諭としてスポーツ指導に情熱を捧げ、インターハイの上位校を本学OB・OGが占めていることも大きな誇りである。このように日本のスポーツ界の進展を支えてきた本学の歴史を改めて振り返ることによって、日体大が果たしてきた役割(社会的使命)について再確認するとともに、未来を見据えて日体大の学生としてのアイデンティティを醸成しようというものである。	
学部共通科目 総合科目	体育研究発表実演会	これまで、各人が経験してきた「するスポーツ」を基礎に、「みせるスポーツ」の考えのもと、老若男女、多様な来場者がスポーツに興味・関心を持ち、実践につながるような演技発表について学ぶことを目的とするとともに、スポーツ社会のニーズや顧客満足度の高い運営方法、安全管理方法を含め、学習する。	
学部共通科目 総合科目	集団行動実技	学校生活において、児童、生徒たちの一人ひとりが身勝手な行動で、仲間に迷惑をかけたりすることが事故につながる要因となる。その原因は集団での基本のあり方と理解の意識、安全教育の欠如が挙げられる。社会の風潮として「自分さえよければいい」という考え方を持った人たちが増えている今日、安全な生活は「人に作ってもらう」のではなく「自らが意識し行動する」ことにある。「心が触れ合える」「助け合える」「思い合える」大切さをこの科目を通じて少しでも身近なものに感じることで、集団行動の基本的動作を理解し実践できる能力を身につけることを目的とする。	
学部共通科目 総合科目	集団行動演習	いつの時代にも仲間が必要で、人々はこの集団の中から多くのことを学び、価値を見つけてきた。この科目では「きまりや約束を守る態度」や「他人を思いやる気持ち」、「自ら率先して行動する心」を学修するため、1年次半期実技科目「集団行動実技」で学修した集団行動の基本動作の理解・実践をさらに展開する。学校生活においては安全に物事を行う事が大前提であり、その中で集団での活動の素晴らしさを感じられるよう、集団行動の基本動作を活用、応用し、グループ毎に集団演技を制作し発表を行うとともに、指導者として集団行動の動きを指導できる能力を身につける事を目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	スポーツと組織	スポーツ活動を進めていくにあたり、それを組織化することやその組織(集団)を作り上げていくことは非常に重要である。この授業ではスポーツ活動を実施していくために必要な組織の作り方やそこに所属する人々の動かし方などの具体的方法やそもそもスポーツ活動において組織が果たす役割などについて学修する。	
学部共通科目 総合科目	海浜実習	本実習では、①自然環境の理解、②遠泳を通して自己の限界に挑戦し、自分自身を評価する(心身の鍛練)、③集団生活を通して、同級生とのコミュニケーションを図り、協調性を養う(集団生活における輪)。そして、これら3つのテーマ(目的)を通して、日体大生としての自覚・プライドを高め、入学した時の目的・目標や将来の在り方などを再確認して、今後の学生生活に活かすことができる実習とする。また、海での実習のみならず、宿舎での引率教員による指導、あるいは学習講義などを行う。	
学部共通科目 総合科目	キャンプ実習	本実習は、キャンプの基礎的な知識や技術能力(野外生活技術・野外活動技術)を身に付けることをねらいとする実習である。教育的組織キャンプは、総合的な科学的科目として捉えることのできる「キャンプ」を基盤に、自然体験学習を通じて、自然と人・社会と人・人(文化)と人という人を取り巻く環境を理解し、それぞれにふれあえる事のできる人材としての資質を身につける事を目的とする。また、自然活動体験を通じてそれぞれの環境における各自の役割と責任についても学習する。そのテーマは『ふれあいキャンプ』と題し実習を実施する。	
学部共通科目 総合科目	スキー実習	本実習は、実践的なスキーヤーになるためのスキーの技術研究と理論を体験的に学習する。さらに、雪の自然環境で自然と向かい合ながら自然を見つめ、自然の理解、自然の活用や自然と人間の営み、友人間の社会性を総合的に学修する。また、スキーリゾートコンプレックスや、リゾート自然環境についても併せて学修する。特に、技術実践では履修者はパラレルターン技術がテストに合格できるところまでを目標とする。	
学部共通科目 総合科目	スケート実習	本実習は、生涯スポーツならびに競技スポーツとして行われるスケートの基本を学び、そこから専門的領域へと発展させ、身体を通じた実習を行うことで、氷上活動における知識と実践を学修することを目的とする。また、集団生活におけるルールやマナーを身につけ、野外実習の運営についても学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究A	スポーツ文化研究Aは、大学1年生のための導入教育として開講される授業である。ここでは大学での学修に必要な学習技術の習得を目的としている。すなわち、図書館の利用の方法やインターネットを用いた資料の探索と収集の方法、アカデミックライティングの方法と効果的なプレゼンテーションの方法を習得することを目的としている。	
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究B	スポーツ文化研究Bでは、スポーツ文化研究Aで学修した方法を実践し、学習技術の定着を図ることを目的とする授業である。そのための方法として、ここではグループワークによってスポーツ文化に関連する課題について、これまで学んだ方法などを用いて、リサーチしてそれに分析を加えることで結論を導き出し、その結果を発表するとともに、それを文字化して報告書を作成するまでの一連の過程を学修する。	
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究C	スポーツ文化研究Cでは、これまでスポーツ文化研究A・Bで学習した方法を用いて、受講生自身が持つスポーツに関連する問題に対してアプローチし、1年間かけて研究を進めていくことが目的である。最終的には1年間かけて調べたことを後半部に発表する形式とする。	
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究D	スポーツ文化研究Dでは、スポーツ文化研究Cで研究した内容を継続的に深めたり、あるいは新たな問題を立てて、それについて調査研究を進めていくものである。実際にそれらの研究の結果は何らかの形で文章化し、ゼミ論のような形に仕上げていくことを目標とする。また、研究が進むようであれば、それを卒論にまで仕上げることを目指す。	
学部共通科目 総合科目	卒業研究	卒業研究は、スポーツ文化研究において学んできた研究方法を用いて、自分自身が問題とするテーマを深く掘り下げ、一つの答えを導き出し、それを論文という形に仕上げていくことを目的としている。実際には資料の収集やデータの蓄積とその分析などに多くの時間が割かれることになるが、その結果を文章化することで新たな知見を多くの人々に知ってもらえることになる。そうした意味では卒業研究が大学4年間で学んできたことの集大成にもなる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	地域社会とスポーツ	<p>社会の仕組みや地域を取り巻く様々な環境から、地域の特性やそこに暮らす人々の営みの知り、地域における体育・スポーツに関する課題の発掘について学ぶ。また、これらの地域課題への対応を学ぶことで、健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築を目指したスポーツを通じた活力ある地域づくりの方向性について学修する。</p> <p>さらに、この講義を通じて、地域のスポーツ環境整備やライフステージに応じたスポーツ活動を推進することができるスポーツ指導者など、地域スポーツ活動の中核を担う人材の育成も目的とする。</p>	
学部共通科目 総合科目	地域ボランティア実習 (事前・事後指導含む)	<p>地域のボランティア活動への参加を通じて、地域社会に関心を持つとともに、地域社会の文化的・社会経済的背景にも目を向け、地域ボランティア活動の実態、意義、社会的役割を学ぶことで、地域にどのような具体的課題があるのかを考え、地域社会の中核的役割を担う視座の育成を目標とする。</p> <p>また、地域の人々との交流を通じて、豊かな人間性や社会性に資するコミュニケーション能力や課題解決能力の育成にも繋げることで、キャリア形成支援の学修となることを目的とする。</p>	
学部共通科目 総合科目	地域スポーツ演習	<p>すべての人々が健康で幸福で豊かなスポーツライフを営むことのできる社会を構築するため、地域の環境や特性および人々のライフステージを踏まえながら、体育・スポーツ活動を企画・立案・評価する。このことを通じて、地域が抱える体育・スポーツに関する課題等を的確に認識し、課題解決に応じた取組みを積極的に推進することのできる専門的知識と高い実践力の習得を目標とし、地域スポーツ活動の中核を担う人材の育成を目標とする。</p>	
学部共通科目 総合科目	キャリアデザインA	<p>キャリア教育で求められる基礎的汎用的能力である人間関係能力・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を高めることを通して、生涯にわたる社会人としての人生選択が可能となる能力・資質を高める。</p>	
学部共通科目 総合科目	キャリアデザインB	<p>本講義では、「キャリアデザインB」は自らの職業適性をパーソナリティの側面、能力的側面から診断するとともに、職業情報の収集の仕方を学び、職業選択も含めたキャリアデザインの具体的なアクションプランが立てられるようにする。さらにキャリア・インターンシップについての理解を深め、実習への準備について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	インターンシップ実習	学校現場での学校行事等への引率指導補助員として、集中的に実習を行う。事前打ち合わせや児童生徒理解のための交流などを通して学校の具体的・実践的な理解を深め、教職適性を検証すると共に実践的指導力を身に付ける。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ社会学	近代スポーツはこれまで政治・経済、社会情勢に伴い変化してきた。近代スポーツの歴史を読み解いていくと、現在でも問題となっている、スポーツと暴力、スポーツと政治、スポーツと経済・コマースリズム、スポーツと薬物などの原因となってきたものを見出すことができる。また、そこからそれぞれの現状と今後の課題を検討することができる。スポーツは決して華やかな表舞台だけではなく、その裏にはさまざまな問題を抱えてここまで成長・発展してきた。ここでは、以下の授業の内容から、21世紀のスポーツの問題点について検討し、現代社会におけるスポーツの社会的機能・役割等について考えていくための基礎的な物の見方、考え方を育てることをねらいとする。そのため、到達目標としては、毎回のテーマにそって歴史軸をとりながら自らそのことについて説明することができることとする。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ哲学	スポーツとは何か、スポーツはなぜ人間にとって欠かせぬ文化となっているのかを主に哲学的、社会学的、歴史学的、教育学的視点から学び、現状のスポーツの在り方を問う。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ史	今日の高度に発達した産業社会は度重なる技術革新によって産業の効率化を著しく高めてきた。これによって労働時間が一層短縮されるとともに、余暇時間を増大させてきた。またサービス産業の発達と繁栄によって生活の楽しさや便利さが求められてきている。このような社会の変化を背景にしなが、遊びやスポーツも「消費」生活の対象となり、かつてない大衆娯楽の時代を迎えつつある。人々は自己啓発や自己実現に向けて遊びやスポーツに期待を寄せるようになった。しかしゴルフ場建設やスキー滑降コースの建設が、自然保護の問題、農業による人体への影響から論議されるようになり、「スポーツの時代」を迎えたと喜んでばかりもいられない。そこで、本講義では主としてこのような問題を抱えるようになった歴史的背景を探る。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	芸道論	芸道とは各種の芸能分野において手作りの実践法（実技の方法）と理論（芸能を理論的に体系化した芸の哲学）で貫かれた日本固有の身体運動文化である。たとえば、建築・彫刻・絵画・音楽・舞踊・演劇・武芸・庖丁・衣紋・歌・俳諧・茶・花・香・漆芸・陶芸・木竹工芸・金工・刀剣鑄造・鑑定などの芸能の分野に、実技の方法と芸の哲学との両面を備えた秘伝書が作られているが、この秘伝書のなかに「芸道」の成立をみることができる。そこで、この講義では舞踊・演劇・武芸などの芸能を取り上げ、そこに成立している芸道の理論を検討するものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（理論） 基幹科目	異文化交流論	文化は民族という括りを単位として語られることが多い。そのため「異文化」は「異民族」を意味することも珍しくない。しかし、私たちの生活する基盤は国民国家であり、この枠組みの中で実に様々な民族が平和裏に生活を営んでいる。こうした平和がもたらされている背景には、お互いが異なる文化を認め合っているわけであるが、しかし、認め合うための始まりは異文化との交流がその手始めとなっていることは確かである。また、グローバル化の進行によって、異文化との接触が増え、時には民族や宗教紛争にまで発展している。そこで本講義では、異なる文化が交流することは何をもたらしてきたのかを、これまで起こってきた様々な事例をもとに解説するものである。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツボランティア論	スポーツボランティアは、自分から進んでスポーツに関わる活動を支えていく実践行動のことである。日本では1988年に開催された長野冬季オリンピック以降、その活動に光が当てられてきた。しかし、スポーツボランティアの存在が広く世に知られるようになるのは、2007年から始まる東京マラソンからである。こうしたビックイベントでスポーツボランティアが必要なことは予想がつくであろうが、しかし、もっと身近な地域の少年野球やサッカー教室といったスポーツクラブやスポーツ団体の活動もスポーツボランティアによって支えられているのである。そこで本授業では、スポーツボランティアの役割やその範囲が今日に至るまでどのように変遷してきたのか、さらにスポーツ活動を支えるとはどのような意味を持つのかなどについて学修する。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツの安全指導 (リスクマネジメント)	スポーツの活動を垣間見ると、そこには指導者も学習者もさまざまな場面においてリスクと背中合わせの状態にあることがわかる。スポーツ活動中の怪我や事故はいつ起こるか分からないものであるし、また、行きすぎた指導をするあまり、しごき、体罰、ハラスメント、虐待といった状況に陥ってしまうこともあるかもしれない。こうしたこれから起きるかもしれない危険に対して事前に対応するための行動の指針をどのように持つと良いのであろうか。そこで本授業では、そうした危険な状況に陥らないための行動規範を学修しながら、スポーツをどのように安全に指導したら良いのかを考えていくことを目的としている。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ医学	スポーツ医学は、競技スポーツによる障害の予防・治療や競技力向上のための医学としてスタートしたが、今やドーピング・コントロール、突然死、生活習慣病、健康管理、食生活・身体活動など、幅広い分野をカバーするようになっている。これらについてスポーツドクター資格を有する内科医、整形外科医がそれぞれの専門的立場より解説する。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	野外活動論	現代社会は都市化が進み、生活空間の中に自然との触れあえる時間や空間が失われてきている。人々は心身のバランスを取り戻すために自然を求める行動を起こす。このような現象はこれからますます増加する傾向にあると考えられる。そこで本講義では、生涯に渡って楽しむことのできる自然とのふれあいを求め、そこで何かの活動をしようとする時に必要になってくる野外での活動の基本的考え方について学修し、将来的に指導者として必要な野外活動の基本的な理論を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（理論） 基幹科目	救急処置概論	事故発生の場面に、常に医師や看護師、また救命救急士がいるわけではない。そうした場面では、その場に居合わせた人が処置することになるが、その処置が的確であれば救命できたり、大事に至らないこともある。スポーツを指導する場面では、集団を取り扱うことも多く、事故や病気、怪我の発生するリスクも高まる。そこでその授業では、救急処置、応急処置に必要な知識の習得を目的としている。	
学部専門科目（理論） 展開科目	身体文化論	身体文化とは、私たちの「からだ」を中心にして、そこから紡ぎだされる文化的現象の全体を指す言葉である。本講義では、こうした身体文化がどのように捉えられてきたのかを日常の身体行為やスポーツなどを事例にししながら、文化論的な視点から解説を加えるものである。	
学部専門科目（理論） 展開科目	衛生学・公衆衛生学 (運動衛生学を含む)	衛生学(予防医学)と公衆衛生学の意図するところは、人々の疾病を予防し、健康の維持・増進をはかり、延命をもはかる科学である。したがって、疾病や健康障害の要因が如何なる条件下で生体に働きかけるのか、また起しやすい条件にどう対応するのか等について学修し、健康への理解を深める。	
学部専門科目（理論） 展開科目	機能解剖学	本講義は、人体の構造と機能(解剖生理学)を基本に置いて、その内容を構成している。体育は身体運動を通して健康の保持・増進を助長することを目的としている。また身体運動によって生体は反応し、運動に適した形態と機能を獲得してくる。したがって、本教科のねらいは、これらのことについて系統的に学修する。	
学部専門科目（理論） 展開科目	発育発達論	本講義のねらいは、発育発達に関わる身体の変化を理解することである。講義では、身体の変化を形態面と機能面の2つに分け、具体的なデータを示しながら展開する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（理論） 展開科目	スポーツ生理学	筋・神経・呼吸循環機能の身体運動における役割を基質・エネルギー代謝などに関連付けながら生理学的に理解し、知識を得るとともに身体運動に対する身体諸器官の急性および慢性的な生理学的応答・適応のメカニズムを理解し、知識を深める。具体的な到達目標は以下のとおりである。1.身体運動およびその調節における筋・神経系の役割を理解する。2. 身体運動中のエネルギー代謝を理解する。3.身体運動中の呼吸循環系の役割をエネルギー代謝と関連しながら理解する。4.身体運動に対する身体諸器官の慢性適応を理解する。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・体づくり運動(体操)	体操は健康の維持増進を目的とし、学校体育・社会体育においても重要な位置を占めており、生涯体育の基礎的な役割を果たしている運動領域である。基礎的理論と実践から理解を深め、基本運動と体操の指導法を修得する。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・器械運動	器械運動は、実技必修科目として位置づけられており、教員採用試験においても多くの県が実施している種目である。「マット」「とび箱」「鉄棒」を使用し、「技が円滑にできる」ことをねらいとして、自己の努力や工夫によって器械器具の安全を確かめながら、洗練された運動が安定してできる段階まで練習すると共に、指導法及び補助法も身につける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・陸上競技	陸上競技の走運動からハードル競技の技術とスタート技術を学習するとともに、投運動から砲丸投げを学び技術の習得を始め安全面に対しどのような注意を払ったら良いのかを学び・実践する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・水泳	文部科学省の学習指導要領に取り上げられている水泳の種目でクロールと平泳ぎの基本技術習得を目的とする。競技力向上のためではなく、正しいフォームを身につけ、長い時間ゆっくりと泳ぐことができるようになることをねらいとする。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・ソフトボール（野球を含む）	ソフトボールを中心に、個人やチームの技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。 ソフトボール又は野球の各種目の特性を踏まえ、バット操作やボール操作とボールを持たないときの動きを理解し実践する。 バット操作やボール操作では、バッティング、バントなどの技術を用いて、打ち返す方向をコントロールしてヒットをねらったり、進塁をサポートしたりして得点につなげる攻撃と、フライやゴロに対する補球動作と送球動作などの守備の技能を身に付ける。また、ボールを持たないときの動きでは、攻撃では、次の塁をねらう動きによって進塁することを、守備では、打球に応じた守備位置の移動や仲間と連携して中継プレイやバックアップをするための動きを身に付ける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・ダンス（フォークダンスを含む）	ダンスに必要な基礎的技術、理論の習得。学校体育（中学・高等学校）で取り上げられている創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスを学び実際に動きができる。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・球技A	ゴール型球技の各種目の特性を踏まえ、手でボールを扱うバスケットボールを中心に、ボール操作とボールを持たないときの動きを理解し、チームや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。 ボール操作の動きでは、ボールを保持したり相手をかわしたりして攻防を展開する技能を、ボールを持たないときの動きでは、パスを受けるために空間に走り込んだりゴール前へ侵入したりする動きによって、組織的に攻防を展開する技能を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・球技B	<p>ネット型球技の各種目の特性を踏まえ、ラケットでボールを扱い、一回の返球によって攻撃を組み立て打ち合うバドミントンを中心に、ラケットの操作と操作直後の動き理解し、ダブルスや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。</p> <p>ラケットの操作では、サービス、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球場所をコントロールしたり、緩急や前後の空間への返球、シャトルの変化などによって、体勢を整えたり、相手の隙をついたりして攻防を展開する技能を、ラケット操作の直後の動きでは、空間を埋めたりカバーしたりする動きによって、攻防を展開する技能を身に付ける。</p>	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・武道(柔道)	<p>嘉納師範が考えられた精力善用、相助相譲、自他共栄の精神を教え、社会人としての適応能力を身につける。</p>	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・武道(剣道)	<p>文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において全ての生徒に武道を履修させる事となった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道(剣道)の伝統的な考え方を理解し、まずは自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通じた練習や試合ができるようになる事を目標に授業を展開していく。</p>	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・武道(相撲)	<p>国技である相撲の歴史と実技を学ぶ。まわしの取り扱いの説明、蹲踞・四股・仕切り・構え姿勢の実践、塵浄水・四股・運び足動作の実践、押し・寄り・吊りの実践などを学修し、さらには審判法も身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（体育実技） 展開科目	スポーツ実践指導法・柔道	柔道の特性を理解し、正しい技術を身につける。基本技術から応用技術までを理解し身につける。到達目標として、初段から三段の技術を獲得すると共に、安全に授業を行う為の指導法を身につける。また嘉納師範が考えられた精力善用、相助相譲、自他共栄の精神を教え、社会人としての適応能力を身につける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	スポーツ実践指導法・剣道	学習指導要領の改訂により、2012年4月より全国の中学校において、全ての生徒に武道を学習させることとなった。そこで本授業では1年次に学習した運動方法・武道（剣道）の内容を復習しつつ、指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行いながら指導方法について学習をする。また、教育現場の現状を踏まえ、剣道具を用いずにできる「木刀による剣道基本技稽古法」についても学習をする。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	スポーツ実践指導法・相撲	中学校・高等学校の保健体育教員を目指している学生に、相撲の歴史、基本、対人技能、主審の動作、審判法を習得し、指導法を身に付けさせる事を到達目標とする。	
学科基礎科目 基幹科目	スポーツ文化論	本講義では、スポーツを文化現象としてとらえる視点と考え方を学修する。そのために前半部ではスポーツを文化として理解するための文化の構成要素（言語、物質、認識、宗教、民族など）をスポーツの現象の中に見出しながら、スポーツが如何に文化的なものであるかを解説する。また後半部ではこれまでの人類の歴史をとおしてスポーツが文化的な現象として、それぞれの時代の中でどのような役割を果たしてきたのかを学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 基幹科目	文化人類学	文化人類学はフィールドワークという方法に基づき、世界のさまざまな民族の諸活動の背景にある文化を理解し、人間の在り方を考えていく学問である。この授業では文化人類学の視点と方法を学びながら、民族と国家、家族親族、宗教、ジェンダー、開発や観光、移動など、現代社会を理解するうえで不可欠なテーマを取り扱う。これを通して生活様式の違いや価値観の違いから起こる諸問題を捉え、解決へ導く基本的な視点や考察力を学修することを目的とする。	
学科基礎科目 基幹科目	スポーツ人類学	スポーツ人類学はスポーツを窓口としながら文化的他者についての理解を深めることを目的とする学問である。そこでこの授業では、スポーツが地球規模で拡散していった原理やその背景、またスポーツが当該社会と融合する過程、スポーツと宗教や民族などとの関係を人類学視点から解説する。さらに、現代社会の中に見られるスポーツとアイデンティティの問題やスポーツの中に見られる差別や排除の問題などについて取り上げる。	
学科基礎科目 基幹科目	武道論	日本古来の身体運動文化である武道は、現在、世界各国に伝播・普及し、多くの人々に親しまれている。武道が海外に普及するに至るまでには、実に長い年月を要してきたが、その間、日本国内において運動競技とは異なる文化性を醸成させてきた。そのため日本固有の精神性ともいえる「道」という考え方が武道の中核となったのであった。本講義では、武道とは何かを理解するために武道のこれまでの歴史を辿り、我が国固有の身体運動文化がどのように形成されて現代に至ったのかを概観するとともに、その中に示されることになる「道」の精神とは何かについて解説するものである。	
学科基礎科目 基幹科目	礼法	礼法とは、無駄を省いた美しい所作である。マナーやエチケットは約束事であり常識さえあれば誰でも実行できるものである。日本人の感覚として、日常生活の中でも「美」が大切にされていることは周知の事実である。たとえば日本には四季があり、それぞれの特色とその自然環境に衣服や住居などの生活を調和させている。そして人と接する際には美しい立ち居振る舞いが好まれ、武道においても動作の基本は構え・姿勢にあると言われている。本講義では、人との「間」「間合い」「間柄」などを大切に考えながら、所作を通じてお互いの人格を尊重できる教養(言語・動作)を学修する。	
学科基礎科目 展開科目	トレーニング学	内外を含めた体力の定義を理解し、体力の考え方を認識するとともに、生理学的基礎知識等に基づく科学的トレーニング方法の基礎を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 展開科目	コーチング学	コーチング学は、本学学生にとっては極めて重要な学習領域であるといっても過言ではない。当該授業では、「スポーツ指導論」「スポーツ方法学」「スポーツ運動学」等と共通する内容を取り上げており、各領域における基本的知識を学修するために授業展開上の独自の副題を「スポーツ指導の基礎」としている。本学学生の将来にわたるスポーツ活動との接点は多岐にわたるため当該授業においては、「スポーツ指導者の危機管理能力」の向上をも視野に入れ、スポーツ実施者のスポーツ実施目的と個人的諸条件(個人差)を十分考慮しながら、楽しいスポーツ活動の展開へ向かって、より望ましいスポーツ指導法およびより好ましい指導者像確立のための基礎を学修する。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツ心理学	スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とする。本講義の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることである。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツバイオメカニクス	日常生活からスポーツ活動において見られる人の動きは、身体内部で発揮される力、骨格などの身体構造、地球上での力学的性質(重力、摩擦力、空気抵抗など)、神経制御との関連から成り立っている。人の動きを客観的にとらえるために必要な科学用語を知り、代表的な科学法則を理解する。各人がこれまで行ってきたスポーツだけでなく、種々の動作の共通点、相違点を客観的にとらえることができる。	
学科基礎科目 展開科目	人権教育	近代自然法思想に基づいた人権思想は、日本国憲法の基本的原理の一つである。従来、人権教育は、法学あるいは教育学のどちらかに重点が置かれていた。そこで、その法的原理や法的展開を学習するとともに、学校教育における人権教育は、総合的教育活動が展開されていることを学び、人権尊重の重要性を考えさせたい。人権教育の目標である人間の尊厳、人権擁護に関する知的理解や豊かな人権感覚、豊かな人権尊重の理念についての認識を育み、身に付けられるように学習を進めたい。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツ栄養学 (食品学を含む)	栄養の役割と重要性を理解し、栄養学の基本と実践栄養学の食事学を理解し、スポーツとの関係についても正しい知識と食事の実践力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 展開科目	学校保健 (小児保健・精神保健を含む)	学校保健は、子どもの健康を守り育て、到達可能な最高水準の健康を教授するという「子どもの権利」を保障する役割を担っている。そのため、学校保健の授業では、成長期にある子どもの現代的健康課題を把握し、学校保健全般についての理解を深めるとともに、子どもの健康の保持増進に必要な学校での具体的方策を立てる能力とその方策を実行する能力を養うことを目的とする。	
学科基礎科目 展開科目	学校安全 (救急処置を含む)	安全で健康な学校生活を送り、望ましい行動を行うには、学校をとりまく環境、学校内での先生・生徒関係、生徒どうしの交友に関心を持ち、互いに認めあう心を育むことが必要です。将来生徒指導の視点を持つことの重要性を理解させたい。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツ経営管理学	スポーツ経営管理学とは、人間にとっての体育・スポーツの価値を最大化して、効率的・継続的にその価値を享受させるための組織的活動の原理原則を探究する学問である。もっとも、その各論(学校体育・総合型地域スポーツ・商業スポーツ施設・スポーツイベントなどの経営管理)は多岐にわたるが、講義では、体育・スポーツ活動の条件整備に係わる理論である「事業論」、事業を組織的に営むための理論である「組織論」(組織構造・組織過程)を中核とする。また、社会におけるスポーツ活動の多様化にあわせ、「スポーツ経営管理学」が取り扱うスポーツ場面も広がりを見せているが、本講義では、学校体育と地域スポーツの経営を中心にしながら、体育・スポーツ経営管理の考え方、進め方について学んでいく。	
学科基礎科目 展開科目	国際情勢理解	国際情勢を理解するためには、国家間の利害関係やその対立を政治的に調整・解決していく国際社会の在り方だけではなく、現在では国際化やグローバル化が進むことで、世界規模で直面している様々な問題(安全保障、人権問題、環境問題等)も取り上げる必要がでてきている。この授業では、複雑な現代国際政治を理解するための基礎的な知識を学修することを目的としている。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツと国際協力	我が国ではJICAを中心としながら、これまで開発途上国に対して多くのスポーツ協力活動を展開してきた。本学でも1966年に最初のJICA隊員を送り出し、その後も継続的に国際協力を推進するための人材を輩出してきた。この授業では、スポーツを通じた国際協力とは何か。また、スポーツによる国際協力援助をどのように推進したら良いのかなどについて学修する。授業展開としては、前半部の授業において国際協力の全体像を説明した後に、JICAボランティアの経験者をゲストとして招き、スポーツを通して国際協力に従事することの直接経験を語ってもらう。最終的にスポーツを用いた国際協力とはどのようなべきなのかを学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 展開科目	国際保健学	国際保健学とは、グローバルレベルで人々の健康課題について研究する学問である。感染症対策、国際保健協力活動、および国際開発が主流で、これまで公衆衛生、疫学、医学、人類学、開発経済学などの複合的な学問領域で考えられてきた。しかしながら、スポーツを通して見えてくる健康水準の格差、さらには異文化コミュニケーションへの理解も重要である。例えばイスラム女性のスポーツへの積極的な参加は、ヘルスプロモーション活動の基盤づくりとなる。あるいはアフリカでは、すでにサッカーをエイズ啓発に活用するなど、スポーツを手段とした保健指導や地域開発の指導が推進されている。このようにスポーツ分野からの国際保健学へのアプローチは、今後、新たな健康戦略として期待されている。そこで本授業ではスポーツ分野からの国際保健医学へのアプローチについて学修するものである。	
学科基礎科目 展開科目	伝統芸能論	伝統芸能である能・狂言を中心とした歴史を学び、実技習得をはかる。その内より、日本文化に触れて日本人らしさを取り戻す。	
学科基礎科目 展開科目	伝統芸能史	芸能とは学問・芸術・技能などのすぐれた能力のことをさすが、本講義では囲碁・双六・散楽・遊女・傀儡子・相撲などの狭義の芸能・遊技的職能を取り上げ、その成立の経緯について講ずることとする。また室町期以降、職能の分化の進行とともに、「職人」は手工業者を指す語になったことから、芸能もしいにその意義が限定されるようになって、生け花・茶の湯・歌舞音曲などの遊芸をさす言葉になっていることにも着目したい。要は伝統芸能を芸道の観点からとらえ、その枠組みから伝統芸能史を考えてみようと思う。	
学科基礎科目 展開科目	伝統芸能の諸相	伝統芸能と一言で言っても、その中身は多様である。本授業では、伝統芸能と考えられている日本固有の文化的活動はどのようなものなのかを整理しながら、それらの諸活動がどのように実践されているのかを概観し、その固有性を理解することを目的とする。また諸芸能の相互の関係についても学修するものである。	
学科基礎科目 展開科目	比較舞踊学	人類とともに舞踊がある。時代の文化的変化と発達に伴い、いろいろな地域で発展してきた舞踊の特性を理解し、舞踊学を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 基幹科目（理論）	武道教育論	学校における武道教育が有効適切に実施されるためには、武道の「基本動作」をどのように習得させるのか、といった技術指導だけではなく、そこに内在する法則や原理等が歴史的にどのように形成されてきたのかについても教授していくことが求められる。本授業では、とりわけ後者の視点を踏まえながら、武道教育の歴史や、その中にみる文化・思想・伝統性、更には現行の武道教育の実際（指導法や教材づくり）や海外における武道教育についても取り上げ、講義を展開していく。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	武道技術論	武道の技術を身に着けるためには、たゆまない繰り返しの修練が必要となる。しかし、無闇に稽古を行ったとしても、それが十分に生かされるわけではない。そこでこの授業では、武道の技術を身に着け、理解するために、武道技術の基本的な練習方法や身に着け方を体系的に学修することを目的とする。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	稽古論	武芸の世界では、これまで多くの先人たちによって、稽古とは如何にあるべきかが語られてきた。その代表は世阿弥の稽古論であるが、しかしこれに収斂されるものではなく、宮本武蔵の五輪書もそうした稽古論の一つとして読むことができる。この授業では、芸道や武道の中で語られてきた稽古に対する考え方を取り上げ、稽古とはどのように考えられてきたのか、また先人たちの稽古についての考え方には何か共通点があるのかを、毎回異なる稽古論を取り上げ比較することで、最終的に稽古とは何かを考えていくことを目的とする。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	比較武道文化論	本講義では、日本社会の中で育まれてきた武士道と西洋社会の中で形成されてきた騎士道を比較し、その共通性や違いを通して、それぞれの文化が醸成した武道文化を学修する。武士道と騎士道については一見すると大差がないように見える。「武士道」については新渡戸稲造の著作が有名であるが、これを意識して文化人類学者のルース・ベネディクトは『菊と刀』に武士道と騎士道の違いを明確に示した。こうした先人の研究を紹介しながら武士道と騎士道を比較することで、各の武道文化を理解する。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	武道国際普及論	武道の普及の仕方は時代やそれを普及させる組織によって大きく異なりを見せている。周知のように最も早く世界に普及したのは柔道であった。また、空手も早くから海外に伝播し、普及したが柔道と同様に海外の文化的な価値観が大いに入り込むことになった。それに対して剣道は海外普及させながらも文化の変容を極力抑えるような普及のさせ方を模索している。そこで本授業では、武道が国際的に普及していく過程でおこるさまざまな問題を具体的な事例を通して明らかにし、武道を国際的に普及させていくためには、どのような取り組みが必要なのかを学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 基幹科目（理論）	武道国際交流論	本講義では、武道の国際交流のあり方を学修し、その後、実施される伝統文化交流実習をより意義あるものにするを目的としている。そのために、これまで本学で行われてきた伝統文化交流実習を概観するとともに、伝統文化交流実習の実施予定場所の社会構造や文化的特性などを学修し、実施予定の武道を海外でどのように紹介していくのかに際してもグループワークによって学修する。	
学科専門科目 基幹科目（実践）	伝統文化交流実習A	伝統文化交流実習Aでは、これまで積み上げてきた武道や諸芸能の技術や理論を海外において披露するとともに、海外の団体との交流を通して国際社会において伝統芸能や武道を伝える能力を磨き、将来的に海外において指導できるような素養を身に着ける。	
学科専門科目 基幹科目（実践）	伝統文化交流実習B	伝統文化交流実習Bでは、海外において稽古や練習に参加したり、あるいは海外において武道の指導を行ったりすることで、一定の交流を果たしたと見なされるものについて単位認定をするものである。具体的には、海外のナショナルチームの選手たちと合同で合宿したり、あるいは提携校において武道の指導を行ったり、あるいは大学が認定した機関において武道の交流を行うという活動を指している。なお、この実習を履修予定の学生は事前に授業担当者に相談すること。	
学科専門科目 展開科目（理論）	武道科教育法	武道の指導は、指導者自身の技能、見識、経験、態度などの資質が重要な条件となる。この意味から適切な指導の方法や指導の原則を理論的に把握し、実際の指導現場に活かせる指導力を養うことが必要であることから、これらの基礎的な力を身に付けることを狙いとする。	
学科専門科目 展開科目（理論）	武道教育研究法	<p>武道を研究しようとしたとき、研究対象は武道であっても、それに対するアプローチの仕方は多種多様であり、その全体像を知ることは難しい。そこでこの授業では武道の人文・社会科学的な研究方法を中心として、研究の視点や方法について、具体的な事例を挙げながら研究方法を一つ一つ概観することで、武道研究を進めていくための基礎的な視点を学修するものである。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(55 波多腰克晃／7回) 武道の哲学的・思想史的研究の方法について、その基礎を学修する。</p> <p>(8 古澤伸晃／8回) 武道の人類学的・社会学的研究の方法について、その基礎を学修する。</p>	(オムニバス)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（理論）	武道用具論	武道は広義に考えるとわれわれ日本人の祖先がこの国土で生活を始めてから現代までの長い歴史の中で、非常に多面的で複合的な性格をもって発展してきている。その中でも近代における競技化された武道を考えたとき、試合規則（特に用具・武具）や試合場規格等の変更は運動技術・運動文化まで多大な影響を及ぼしている。そこで本授業では柔道・剣道・相撲（施設）の変遷について学習し、その基礎的概略について理解する。	
学科専門科目 展開科目（理論）	武道文献講読	武道には多くの文献が残されている。これらは古典、古文書、傳書などと呼ばれ、それぞれの武道の特徴を各道の立場で体系的に述べている。そして、これらの文献の中身は、単なる武術の教科書に留まらず技術の追求を通して究極において人間としての生き方はどうあるべきかという人間的哲学をもその範疇に含んでいる。そこで、これらの文献を通して本質に近づき、幅広く武道の内容に触れることを狙いとしたい。	
学科専門科目 展開科目（理論）	武道史各論	武道は日本古来より連続と続けられた身体技法の総称である。元々は様々な身体技法が一体化されたものであったが、江戸期を迎えるあたりから徐々に分化し、独自の体系に発展してきた。そのため江戸期を過ぎる頃から剣術や柔術などが一つの身体技法として確立した。そこで本授業では、こうした分化した個別の武道の歴史を具体的に辿り、その流れを学修するものである。	
学科専門科目 展開科目（理論）	舞踊創作論 （作品論を含む）	さまざまな舞踊における表現方法及び、創作方法を理解し、舞踊作品の動きの工夫、発展をどのようにしているのか分析し、創り上げていく面白さを知る。また、創作者の時代背景、やテーマから何を意図していたかを探求していく。	
学科専門科目 展開科目（理論）	古典芸能論（能・舞踊）	古典芸能はもともと都市部において人気を博してきた芸能であり、上演のたびに新たな変化を加えることで新しい芸能を生み出し、現代に至ったものの総称である。この授業においては、こうした古典芸の中でも特に能と舞踊を取り上げ、その全体像を把握するとともに、日本の伝統芸能に通底する稽古における精神について論ずるものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（理論）	芸能鑑賞論	本講義では、日本の伝統芸能、とりわけ庶民に愛され、いまでも絶大な人気を誇る歌舞伎を軸に、能、狂言、文楽、落語、講談、邦楽全般などとの関係をさぐる。そうした伝統芸能にこめられた日本人の美意識。色やデザイン、肉体の表現。音の嗜好、日本語の響きなど多方面から考察してゆく。	
学科専門科目 展開科目（理論）	伝統芸能交流論	「日本の発信」という問題を考えたときに、伝統芸能の文化交流の事情を知ることは、非常に重要である。いまや伝統芸能の国際交流の場は、日本のみならず世界に開かれており、そこで展開されたものが日本の伝統芸能として受け止められている。そこでこの授業では前半部において伝統芸能の異文化への進出における特徴を整理した後に、日本の伝統芸能がどのような形で異文化に表現されてきたのかをゲストを招いてお話しいただく。また、後半部では今後の伝統芸能の交流のあり方を考えていく上で何が必要なのかを受講生間のディスカッションや発表によってフィードバックしてもらい、最終的に伝統芸能の交流とは何かについて学修するものである。	
学科専門科目 展開科目（実践）	国際武術実技	世界中にはさまざまな格闘技や戦闘技術が存在している。なかでも武道と類似する身体活動も数多くある。ここではそうした身体活動を国際武術と呼ぶが、この国際武術が武道とどのように異なるのかは、言葉だけでは理解できないことも多い。そこでこの授業では、武道に近接する身体活動を実際に体験し、その類似性や違いを自分自身の身体を通して感じ取るとともに、その武術の特性を学修することを目的としている。	
学科専門科目 展開科目（実践）	競技スポーツ実技	競技スポーツの精神は、武道とは異なる独自の発展を遂げてきた。特にそれは勝利至上主義を背景として、いかに勝利をおさめるのかを目標とし、そのための練習方法であったり、精神論が論じられてきた。この授業では、武道とはその本質が異なる競技スポーツを取り上げて、その実技の体験を通して競技スポーツとは何かを身をもって知ることを目的とした授業である。	
学科専門科目 展開科目（実践）	武道実技(弓道)	弓道は正しい所作で、弓を的に射ることを目的とした日本古来の武道である。一人で行う個人競技であることから、個々人の体力に応じた強さの弓を引くことで誰もが実施することができるのも特徴の一つである。本授業では弓具の操作に慣れ、射法八節の修練を目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（実践）	武道実技（形）	日本の伝統的文化は型の文化と言って良いほど型によって伝承されてきた。歌道、茶道、華道、能楽、武道などその代表的なものである。武道においては柔、剣、弓、槍、馬などが一体となった総合武術であったものが、それぞれ独自の形態によって分化し、その型が何百年の間、何代にも渡って改良を加え、洗練されながら伝えられてきたものである。そこで本授業では武道の中に存在する数ある型の中から、剣道における型稽古の系譜を受け継ぐ「日本剣道形」を取り上げ、その形態と技の理合、技を使う際の気の働き、気位について学習する。	
学科専門科目 展開科目（実践）	専攻武道実技Ⅰ	宮本武蔵は『五輪書』の中に「千日の稽古をもって鍛となし、万日の稽古をもって練となす」という言葉を残している。武道がたゆまぬ修練を必要としていることを象徴する言葉である。この授業では、武道の基本技術を定着させることを目的としている。	
学科専門科目 展開科目（実践）	専攻武道実技Ⅱ	不世出の合気道の達人と謳われた塩田剛三は「武道は、一生であり、一瞬である」と語っている。一瞬の動きのために、一生稽古を続けていくことを言い表している。この授業では、武道を続けていくための稽古の方法を身に着けることを目的としている。	
学科専門科目 展開科目（実践）	専攻武道実技Ⅲ	柔道の神様と称された三船久蔵は「意識的にからだを動かして勝てるのは、実力にかなり差がある場合だけで、強い相手に勝つときは、知らないうちに自然にからだが動いて相手を倒すのであり、そういう『動き』を自分のなかにつくっていくために修練を積むのだ」と述べている。試合の場面で無心の境地に至ることができるような修練が必要なのである。この授業では、武道において勝負（試合）とは何かを考えながら稽古をすることの在り方を学修する。	
学科専門科目 展開科目（実践）	専攻武道実技Ⅳ	長年修行を続けた武道は、いつの日か他者に伝授する日がやってくる。現代で言えば、それは指導者による武道の指導ということになる。この授業では武道の稽古を通して、武道の指導の在り方を考えていくことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実技1	最も古くから民衆の中で芽生え育った伝統芸能である日本舞踊の技と美と強い精神力を身につけ、情感を養い、日本人としてのアイデンティティを確立させ、外国との交流に、又教育の場や福祉活動に生かせるような人材を育てることを目的とし、日本舞踊の特性を理解させ、実技の練習を主として基礎的技法を習得する。	
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実技2	日本の伝統芸能、特に民衆の中から芽生え育った民俗舞踊の技を身につけさせ、踊る楽しさを学ぶ。現代のリズムと重なるような踊りへ変化・創作し、教育の場でも生かすことのできることを目的とする。	
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実技3	最も古くから民衆の中で芽生え育った伝統芸能である日本舞踊の技と美と強い精神力を身につけ、情感を養い、日本人としてのアイデンティティを確立させ、外国との交流に、又教育の場や福祉活動に生かせるような人材を育てることを目的とし、日本舞踊の特性を理解させ、実技の練習を主として基礎的技法を習得する。	
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実技4	日本の伝統芸能の和太鼓について歴史や技術を理解し、正しい打ち方を学ぶ。講義と太鼓を使って慣れさせ、課題曲を与え、実際に太鼓を打って実技と理論を取り入れながら進める。	
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実技5	伝統文化交流実習に向けて、古典舞踊の更なる技術向上と創作舞踊を通して、伝統芸能の持つ創造性への理解を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実技6	日本の伝統芸能、特に民衆の中から育った舞踊を風俗習慣も含めて理解させ、踊る楽しさを知る。また、伝統文化交流実習につなげられるように練習、発表する。	
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実習Ⅰ	伝統芸能実技1・3で学んだ日本舞踊の技と精神を集中でさらに磨き舞台での発表を経験させる。	
学科専門科目 展開科目（実践）	伝統芸能実習Ⅱ	これまでの授業（伝統芸能実技1～6）並びに集中・発表で学んだ伝統芸能実技の成果を、海外実習に向けて総合的にまとめることを目標とする。	
学科専門科目 資格関連科目	教師論	「教育は人なり」といわれるように、教育の成否は教える教師次第であり、教師の人間性と専門性により教育効果は大きく左右される。教師、学校とは何か、教師に求められる資質能力、専門性とは何かを学び、関係する法規等についての理解を深める。また、今日の学校と子どもや教師の実態を踏まえ、これからの学校教育、教師のあり方について考えるとともに、教職への意欲と目指す教師像を明らかにする。	
学科専門科目 資格関連科目	教育原理	本授業では、教育についての歴史、思想、制度、今日的課題など、教職に関する今後の学習に必要な基本的な事柄を広く学修する。併せて教員免許を取得するにふさわしい知識と態度を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 資格関連科目	教育心理学	教育心理学は、教育に関する事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるために必要な心理学的知見と心理学的技術を提供しようとする学問である。この講義では、教育心理学にかかわる基本的知識の獲得をめざし、教育心理学全般を概観しながら、学校現場における心理的問題について学習していく。	
学科専門科目 資格関連科目	体育科教育実践法	保健体育科教員として授業を行う能力を身に付けることが本授業の目的である。良い体育授業についての理論を学ぶとともに、体育の模擬授業を行い、教育実習や教員採用試験、あるいは教員に求められている実践的指導力の基礎を養う。具体的には、単位時間の指導計画の書き方、実践的な指導方法、教材研究などを学修する。	
学科専門科目 資格関連科目	保健科教育実践法	保健体育の教員としての資質を身につけるため、保健(分野)の授業をテーマに単元計画、単位時間計画を作成して模擬授業を行えるようにする。ワークシートを作成して発表したり、模擬授業やロールプレイなどを通してプレゼンテーションの力を身につける。	
学科専門科目 資格関連科目	体育科教育法	体育科の目標、内容、指導計画、学習指導法、評価の方法等について理解を深め、保健体育科教員として授業を展開していくのに必要な基礎的資質を養う。	
学科専門科目 資格関連科目	保健科教育法	本講義は、教育職員免許法に基づく中学校及び高等学校の普通免許状(保健体育・一種)の取得要件として設定されている。そのため、保健体育科の教員としての授業力の基礎を培うことを目標として設定するが、当面は、教育実習において保健の授業づくりに工夫ができる力を身につけることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 資格関連科目	教育課程論	教育課程の意義及び意味と内容、編成の基準等について、その法的側面からの理解をするとともに、歴史的な流れをしっかりと見据えながら理解を深めていく。その理解を深めることにより、教職者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。	
学科専門科目 資格関連科目	学習指導論	学習者が確実に速やかに、しかも容易に知識や技能を習得したり、学習する能力を身につけていくためには、学習者の実態を正しく把握し、それらに応じた望ましい学習指導の方法が講じられるべきである。本講義では、学習集団のとらえ方や教材の選び方を学び、合理的な学習指導法について理解を深める。	
学科専門科目 資格関連科目	道徳教育の研究	本講義では、以下のことを目的として展開する。1. 学校における道徳教育の意義、目標について理解する。2. 道徳教育の指導に当たる教師としての基本姿勢はいかにあるべきか理解する。3. 講義・演習を通して、道徳の時間における指導力を身に付ける。	
学科専門科目 資格関連科目	特別活動の研究	中学校及び高等学校における、教育課程の一領域として位置づけられている特別活動の意義や目標を理解し、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法や展開技法、実施計画の立案などを学び特別活動における実践的指導能力を養う。	
学科専門科目 資格関連科目	生徒指導論 (進路指導を含む)	近年、学校現場において不適応行動や問題行動の多発から、教育の真の在り方が問われている。生徒指導はこれまでの教育のひずみを是正し、真の全人間教育に立ち返らせるものとして認識されている。このような立場から、生徒指導の意義、基礎的知識およびその応用について理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 資格関連科目	教育カウンセリング	カウンセリングの総合的理解と学校現場における子どもたちの悩みに対応するために、教師としてとるべき行動を学習する。	
学科専門科目 資格関連科目	教育経営	わが国の学校は単独の組織体ではなく、公教育制度の中に位置づけられるものであり法律的に制度化されたところの学校である。したがって教育経営論では学校教育に関する法律及び教育の制度と教育行政を学習するとともに、現場での事例をとりあげながら教育経営の概念を理解し、実践にそなえる。	
学科専門科目 資格関連科目	事前事後の指導	教育実習の意義と目的について十分に理解を深め、教育実習生としての自覚と心得を養うとともに、実習を通して実務や教科指導、学級指導、ホームルーム経営(道徳指導)などについての実践的な指導力を高める。教育実習の成果を自ら評価し、教育実習生としての資質向上を図る。	
学科専門科目 資格関連科目	教育実習	教科「保健体育」に関する学習指導の方法、生徒指導、学級経営の方法を実習を通して学習し、中学校及び高等学校教員として必要な資質・能力を養う。	
学科専門科目 資格関連科目	教職実践演習	教育実習の経験から学校教育の課題を自ら見つけ、解決のための具体的な実践方法について考えるとともに、課題解決型の学習を通して、社会性や対人関係能力を育てるとともに、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を育成し、学校において起こる得る教育課題について、解決していくための実践的な指導力を身につける。	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（スポーツ文化学部スポーツ国際学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通科目	国語表現Ⅰ	本講義は、「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」という四つの学修基礎力の向上と充実を図ることを目標とする。この四つの学修基礎力は、学生生活および社会生活における思考とコミュニケーションのありとあらゆる局面に関わる最も基本的な人間力とも呼ぶべきものであって、そのスキルアップは、的確な自己分析に基づき設定される明確な目的意識と日々の生活を律する自己管理術とあいまってこそ、充分に実現されるのである。的確な情報収集と分析能力に基づく豊かで知性的な表現力と正確にしてしかも個性的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。	
学部 共通科目	国語表現Ⅱ	本講義は、国語表現Ⅰを引き継ぐ形で「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」という四つの学修基礎力の向上と充実を図ることを目標とする。この四つの学修基礎力は、学生生活および社会生活における思考とコミュニケーションのありとあらゆる局面に関わる最も基本的な人間力とも呼ぶべきものであって、そのスキルアップは、的確な自己分析に基づき設定される明確な目的意識と日々の生活を律する自己管理術とあいまってこそ、充分に実現されるのである。的確な情報収集と分析能力に基づく豊かで知性的な表現力と正確にしてしかも個性的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。	
学部 共通科目	英語コミュニケーションⅠ	グローバル化が進む現代社会で、様々な文化的背景をもつ人々とコミュニケーションする能力を身に付けることは不可欠である。コミュニケーションの手段として、国際社会の共通語とも言える英語を習得することをその最初のステップとし、日常生活で使われる基礎的な英語表現に慣れ、実際に使うことができるようリスニングやスピーキングに重点をおいて学習する。ネイティブな英語を聴き取り、自分の伝えたいことをわかりやすい英語表現で伝えることと、これらの学習を通して異文化の価値観に触れることを目標とする。	
学部 共通科目	英語コミュニケーションⅡ	「英語コミュニケーションⅠ」に引き続き、国際化社会において様々な文化的背景をもつ人々とコミュニケーションするための手段としての英語を習得できるよう学習する。リスニングとスピーキングに加えて、伝えたいことを英語の文章で表現するために、単に英訳ではなく、伝えたいことの要点をまとめた上で、自身の英語表現を使って文章にするなど、自分の伝えたいことをわかりやすい英語表現で伝えることと、これらの学習を通して異文化の価値観に触れることを授業の目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	基礎英語 I	本講義は、家庭、職場、および海外にて他者と交流を行う上で必要な基礎的スキルを築きあげることで、コミュニケーション能力を向上させることに焦点をあてながら英語の基礎を構築する。最終的には、特に文法、用語、スピーキングやリスニングなど、あらゆるスキルを学修する。さらに、文章を一文から書きはじめ、英文によって表現する能力を併せて向上させる。これらのスキルを修得することで創造的に表現する術を体得する。	
学部共通科目 教養科目	基礎英語 II	本講義の目標は、家庭、職場、あるいは海外で交流を行う上で必要な基礎的スキルに焦点をあてることで学生の英語の土台を改善することである。最終的には、「基礎英語I」で発展させてきた言語スキルを復習し、強化し、より完全に発展させることによって、学生たちは、言語力を開花させ、多才な人間となることができる。また、学習スキルや学習スタイルや文化的差異についても考慮に入れつつ、レッスンの一部にペアワーク、グループワーク、またはフリーディスカッションなどを常に取り入れる。	
学部共通科目 教養科目	法学(日本国憲法)	本講義では、国家の法の中でも基本法である憲法を中心に、憲法とは何か、憲法は何を保障しているのか、といった問題意識から、(1)法的思考を身につけ憲法の理解を深めることができる、(2)日頃から憲法問題を見つけ憲法の視点から考えられるようになる、(3)人権・憲法の観点から問題解決を探ることができる、という到達目標に基づいて講義を進める。	
学部共通科目 教養科目	情報処理 (情報機器の操作を含む)	本講義は、情報の理論を背景とした演習を行いながら、クラウド型情報システムを手段として利用する第一ステップである。体育・スポーツ・健康に関する分野で指導的立場となることを将来の目標としている受講生を対象として、計算機の理論及びそれを利用した処理の基礎を習得し、この知識を応用できるようになるための素養を身につけることを目標とする。	
学部共通科目 教養科目	芸術	音楽とスポーツの接点を見だし、音・言葉・リズムに俊敏に反応できる感性を養う。その中でも運動能力にかかせないリズム感を集中的に鍛える。目標としては、複雑なリズムの習得に留まらず、いかなる時にも一定のテンポを保てるようにする。また発声メカニズムの理解・実践を通じてスポーツにも有効な呼吸法を習得する。鑑賞では各担当教官の生演奏に触れることにより、音が精神に及ぼす影響を体感し、その効果がいかにスポーツの現場や音楽療法に取り入れられているか、さらには時間・空間の共有という観点に立ち、生の臨場感を体験することの重要性について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	哲学	まず、「哲学」の基本的な考え方を学ぶ。次に、西洋の哲学者たちが人間のあり方をどのように捉えていたのか、また人間として生きていく上での問題をどのように考えていたのか、を見る。そして、こうした哲学者たちの思索を手がかりにしながら、今を生きる「私(自分自身)」を見つめ直し、「私」が生きている現場に思いを向けていく。本講義では、以上の過程を通じて、「私」自身、及び「私」が関わる人々や物事を、いろいろな角度から考えようとする意欲と思考力を高めることを目標とする。本講義で取り上げる主な「哲学者」と「キーワード」は、以下の通りである。古代ギリシア哲学：〈ソクラテス、アリストテレス〉「アルケー」、「ロゴス」、「対話」、「吟味」、「無知の知」。西洋近代哲学：〈デカルト、ロック〉「学問」、「良識(理性)」、「コギト・エルゴ・スム」、「白紙説」、「経験」。他にも、各担当者の判断により、さまざまな哲学者や哲学用語を紹介する予定である。	
学部共通科目 教養科目	心理学	心理学は「こころ」を直接研究するのではなく、ヒトと環境の中で生ずる現象、たとえば、意識(認知・記憶・思考・感情など)や行動(動作・表情・言語など)が研究対象となり、日常生活での漠然とした「こころ」という現象の中にどのような法則(性)が潜んでいるかを、科学的手法を用いて人間の本質(こころ)を実証しようとする学問である。到達目標は、心理学という学問の考え方や「自分とは何か?」を理解するための手掛かりを探求し発見することであり、さらに、心理学の諸理論や専門用語の理解を深め、スポーツ心理、教育心理、精神保健、カウンセリング、臨床心理学など専門心理学の基礎知識を修得する。	
学部共通科目 教養科目	社会学	将来社会に出てから、役に立つ教育、労働、ジェンダーなどのさまざまな社会問題を取り上げる。このような社会問題について基本的知識を得るとともに、文献資料から学ぶ方法を獲得する。	
学部共通科目 教養科目	経済学	本講義は、1.「景気の見方」では、景気に関するニュースで使われている言葉などを説明し、ニュースの意味がわかるようになる。2.「雇用と労働から見た現代日本」では、雇用・労働の問題について、特に「フリーター」という言葉に代表される非正規雇用の現状について理解する。3.「健康と社会」では、一人一人の「努力」によっては左右できない社会的・経済的要因がどのように健康を規定しているかについて説明し、健康を社会的に見ることの重要性を理解する。	
学部共通科目 教養科目	歴史学	歴史学は対象となる時代の資料を用いて、その時代の歴史を紡ぎ出す学問である。したがって、実証なき歴史、自己に都合の良い解釈は、ただの物語にすぎない。それ故に授業では、史料を読み解きながら、過去の出来事を復元していく。複数の史料をもとに、ひとつひとつ事実を構築し、それらを結びつけながら真相を究明していく。その作業を通して、物事を考察する力を習得し、自分の言葉で発信する力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	海外語学研修	本研修では、研修地での授業、ホストファミリーとの生活、地元の人達との交流などを通し、参加学生は英語の運用能力、特に聴解力と会話を磨き、英語圏(英国)の文化の理解を深める。渡英前と帰国後の特別授業を実施して、効果測定を行う。	
学部共通科目 教養科目	英会話	グローバル社会の到来によって、私たちの身の回りには多くの外国語が飛び交うようになった。その中でも英語は、国際語として非常にコミュニケーションの有効性を持つ言語である。そこで本授業では、英語によるコミュニケーションをより円滑に行うための基礎力を身に着けることを目的としている。具体的には、オーラルコミュニケーションを中心としながら、インターネットなどでのメールの交換ができるようなライティングの方法も併せて学修する。	
学部共通科目 教養科目	ドイツ語	初心者を対象にした基礎的なドイツ語のクラス設定する。ABC(アー・ペー・ツェー)から始めて、簡単な文章の読み書きや、初歩的な日常会話ができるようになることを目的とする。	
学部共通科目 教養科目	フランス語	フランス語を初めて学習する者を対象とし、基本的な会話や文法を習得することを目的とする。また、ヨーロッパの文化や現状を知り、フランスに対する理解を深めることも目的とする。	
学部共通科目 教養科目	中国語	中国語を初めて学習する者を対象とし、基本的な会話や文法を習得することを目的とする。また、中国の文化や現状を知り、中国に対する理解を深めることも目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 教養科目	コリア語	ハングルの読み・書きができ、初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができることを目的とする。	
学部共通科目 総合科目	日体大の歴史 (日体伝統実習を含む)	日体大の歴史を紐解くことは近代日本の体育及びスポーツの歴史を語ることに通ずると言われる。設置者である学校法人日本体育大学は、「国民体育」の振興(今日の総合型地域スポーツクラブ)を目指して明治24(1891)年8月に創設され、以後時代のニーズに積極的に応えてきた。とりわけ東京オリンピックを契機に大きく羽ばたき、昭和40(1965)年代以降には、大学スポーツ界においてめざましい活躍をみせてくれた。また同時に、多くの卒業生が全国各地の中・高等学校の保健体育教諭としてスポーツ指導に情熱を捧げ、インターハイの上位校を本学OB・OGが占めていることも大きな誇りである。このように日本のスポーツ界の進展を支えてきた本学の歴史を改めて振り返ることによって、日体大が果たしてきた役割(社会的使命)について再確認するとともに、未来を見据えて日体大の学生としてのアイデンティティを醸成しようというものである。	
学部共通科目 総合科目	体育研究発表実演会	これまで、各人が経験してきた「するスポーツ」を基礎に、「みせるスポーツ」の考えのもと、老若男女、多様な来場者がスポーツに興味・関心を持ち、実践につながるような演技発表について学ぶことを目的とするとともに、スポーツ社会のニーズや顧客満足度の高い運営方法、安全管理方法を含め、学習する。	
学部共通科目 総合科目	集団行動実技	学校生活において、児童、生徒たちの一人ひとりが身勝手な行動で、仲間に迷惑をかけたりすることが事故につながる要因となる。その原因は集団での基本のあり方と理解の意識、安全教育の欠如が挙げられる。社会の風潮として「自分さえよければいい」という考え方を持った人たちが増えている今日、安全な生活は「人に作ってもらう」のではなく「自らが意識し行動すること」にある。「心が触れ合える」「助け合える」「思い合える」大切さをこの科目を通じて少しでも身近なものに感じることで、集団行動の基本的動作を理解し実践できる能力を身につけることを目的とする。	
学部共通科目 総合科目	集団行動演習	いつの時代にも仲間が必要で、人々はこの集団の中から多くのことを学び、価値を見つけてきた。この科目では「きまりや約束を守る態度」や「他人を思いやる気持ち」、「自ら率先して行動する心」を学修するため、1年次半期実技科目「集団行動実技」で学修した集団行動の基本動作の理解・実践をさらに展開する。学校生活においては安全に物事を行う事が大前提であり、その中で集団での活動の素晴らしさを感じられるよう、集団行動の基本動作を活用、応用し、グループ毎に集団演技を制作し発表を行うとともに、指導者として集団行動の動きを指導できる能力を身につける事を目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	スポーツと組織	スポーツ活動を進めていくにあたり、それを組織化することやその組織(集団)を作り上げていくことは非常に重要である。この授業ではスポーツ活動を実施していくために必要な組織の作り方やそこに所属する人々の動かし方などの具体的方法やそもそもスポーツ活動において組織が果たす役割などについて学修する。	
学部共通科目 総合科目	海浜実習	本実習では、①自然環境の理解、②遠泳を通して自己の限界に挑戦し、自分自身を評価する(心身の鍛練)、③集団生活を通して、同級生とのコミュニケーションを図り、協調性を養う(集団生活における輪)。そして、これら3つのテーマ(目的)を通して、日体大生としての自覚・プライドを高め、入学した時の目的・目標や将来の在り方などを再確認して、今後の学生生活に活かすことができる実習とする。また、海での実習のみならず、宿舎での引率教員による指導、あるいは学習講義などを行う。	
学部共通科目 総合科目	キャンプ実習	本実習は、キャンプの基礎的な知識や技術能力(野外生活技術・野外活動技術)を身に付けることをねらいとする実習である。教育的組織キャンプは、総合的な科学的科目として捉えることのできる「キャンプ」を基盤に、自然体験学習を通じて、自然と人・社会と人・人(文化)と人という人を取り巻く環境を理解し、それぞれにふれあえる事のできる人材としての資質を身につける事を目的とする。また、自然活動体験を通じてそれぞれの環境における各自の役割と責任についても学習する。そのテーマは『ふれあいキャンプ』と題し実習を実施する。	
学部共通科目 総合科目	スキー実習	本実習は、実践的なスキーヤーになるためのスキーの技術研究と理論を体験的に学習する。さらに、雪の自然環境で自然と向かい合ながら自然を見つめ、自然の理解、自然の活用や自然と人間の営み、友人間の社会性を総合的に学修する。また、スキーリゾートコンプレックスや、リゾート自然環境についても併せて学修する。特に、技術実践では履修者はパラレルターン技術がテストに合格できるところまでを目標とする。	
学部共通科目 総合科目	スケート実習	本実習は、生涯スポーツならびに競技スポーツとして行われるスケートの基本を学び、そこから専門的領域へと発展させ、身体を通じた実習を行うことで、氷上活動における知識と実践を学修することを目的とする。また、集団生活におけるルールやマナーを身につけ、野外実習の運営についても学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究A	スポーツ文化研究Aは、大学1年生のための導入教育として開講される授業である。ここでは大学での学修に必要な学習技術の習得を目的としている。すなわち、図書館の利用の方法やインターネットを用いた資料の探索と収集の方法、アカデミックライティングの方法と効果的なプレゼンテーションの方法を習得することを目的としている。	
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究B	スポーツ文化研究Bでは、スポーツ文化研究Aで学修した方法を実践し、学習技術の定着を図ることを目的とする授業である。そのための方法として、ここではグループワークによってスポーツ文化に関連する課題について、これまで学んだ方法などを用いて、リサーチしてそれに分析を加えることで結論を導き出し、その結果を発表するとともに、それを文字化して報告書を作成するまでの一連の過程を学修する。	
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究C	スポーツ文化研究Cでは、これまでスポーツ文化研究A・Bで学習した方法を用いて、受講生自身が持つスポーツに関連する問題に対してアプローチし、1年間かけて研究を進めていくことが目的である。最終的には1年間かけて調べたことを後半部に発表する形式とする。	
学部共通科目 総合科目	スポーツ文化研究D	スポーツ文化研究Dでは、スポーツ文化研究Cで研究した内容を継続的に深めたり、あるいは新たな問題を立てて、それについて調査研究を進めていくものである。実際にそれらの研究の結果は何らかの形で文章化し、ゼミ論のような形に仕上げていくことを目標とする。また、研究が進むようであれば、それを卒論にまで仕上げることを目指す。	
学部共通科目 総合科目	卒業研究	卒業研究は、スポーツ文化研究において学んできた研究方法を用いて、自分自身が問題とするテーマを深く掘り下げ、一つの答えを導き出し、それを論文という形に仕上げていくことを目的としている。実際には資料の収集やデータの蓄積とその分析などに多くの時間が割かれることになるが、その結果を文章化することで新たな知見を多くの人々に知ってもらえることになる。そうした意味では卒業研究が大学4年間で学んできたことの集大成にもなる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	地域社会とスポーツ	<p>社会の仕組みや地域を取り巻く様々な環境から、地域の特性やそこに暮らす人々の営みの知り、地域における体育・スポーツに関する課題の発掘について学ぶ。また、これらの地域課題への対応を学ぶことで、健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築を目指したスポーツを通じた活力ある地域づくりの方向性について学修する。</p> <p>さらに、この講義を通じて、地域のスポーツ環境整備やライフステージに応じたスポーツ活動を推進することができるスポーツ指導者など、地域スポーツ活動の中核を担う人材の育成も目的とする。</p>	
学部共通科目 総合科目	地域ボランティア実習 (事前・事後指導含む)	<p>地域のボランティア活動への参加を通じて、地域社会に関心を持つとともに、地域社会の文化的・社会経済的背景にも目を向け、地域ボランティア活動の実態、意義、社会的役割を学ぶことで、地域にどのような具体的課題があるのかを考え、地域社会の中核的役割を担う視座の育成を目標とする。</p> <p>また、地域の人々との交流を通じて、豊かな人間性や社会性に資するコミュニケーション能力や課題解決能力の育成にも繋げることで、キャリア形成支援の学修となることを目的とする。</p>	
学部共通科目 総合科目	地域スポーツ演習	<p>すべての人々が健康で幸福で豊かなスポーツライフを営むことのできる社会を構築するため、地域の環境や特性および人々のライフステージを踏まえながら、体育・スポーツ活動を企画・立案・評価する。このことを通じて、地域が抱える体育・スポーツに関する課題等を的確に認識し、課題解決に応じた取組みを積極的に推進することのできる専門的知識と高い実践力の習得を目標とし、地域スポーツ活動の中核を担う人材の育成を目標とする。</p>	
学部共通科目 総合科目	キャリアデザインA	<p>キャリア教育で求められる基礎的汎用的能力である人間関係能力・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を高めることを通して、生涯にわたる社会人としての人生選択が可能となる能力・資質を高める。</p>	
学部共通科目 総合科目	キャリアデザインB	<p>本講義では、「キャリアデザインB」は自らの職業適性をパーソナリティの側面、能力的側面から診断するとともに、職業情報の収集の仕方を学び、職業選択も含めたキャリアデザインの具体的なアクションプランが立てられるようにする。さらにキャリア・インターンシップについての理解を深め、実習への準備について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 総合科目	インターンシップ実習	学校現場での学校行事等への引率指導補助員として、集中的に実習を行う。事前打ち合わせや児童生徒理解のための交流などを通して学校の具体的・実践的な理解を深め、教職適性を検証すると共に実践的指導力を身に付ける。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ社会学	近代スポーツはこれまで政治・経済、社会情勢に伴い変化してきた。近代スポーツの歴史を読み解いていくと、現在でも問題となっている、スポーツと暴力、スポーツと政治、スポーツと経済・コマースリズム、スポーツと薬物などの原因となってきたものを見出すことができる。また、そこからそれぞれの現状と今後の課題を検討することができる。スポーツは決して華やかな表舞台だけではなく、その裏にはさまざまな問題を抱えてここまで成長・発展してきた。ここでは、以下の授業の内容から、21世紀のスポーツの問題点について検討し、現代社会におけるスポーツの社会的機能・役割等について考えていくための基礎的な物の見方、考え方を育てることをねらいとする。そのため、到達目標としては、毎回のテーマにそって歴史軸をとりながら自らそのことについて説明することができることとする。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ哲学	スポーツとは何か、スポーツはなぜ人間にとって欠かせぬ文化となっているのかを主に哲学的、社会学的、歴史学的、教育学的視点から学び、現状のスポーツの在り方を問う。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ史	今日の高度に発達した産業社会は度重なる技術革新によって産業の効率化を著しく高めてきた。これによって労働時間が一層短縮されるとともに、余暇時間を増大させてきた。またサービス産業の発達と繁栄によって生活の楽しさや便利さが求められてきている。このような社会の変化を背景にしなが、遊びやスポーツも「消費」生活の対象となり、かつてない大衆娯楽の時代を迎えつつある。人々は自己啓発や自己実現に向けて遊びやスポーツに期待を寄せるようになった。しかしゴルフ場建設やスキー滑降コースの建設が、自然保護の問題、農業による人体への影響から論議されるようにもなり、「スポーツの時代」を迎えたと喜んでばかりもいられない。そこで、本講義では主としてこのような問題を抱えるようになった歴史的背景を探る。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	芸道論	芸道とは各種の芸能分野において手作りの実践法（実技の方法）と理論（芸能を理論的に体系化した芸の哲学）で貫かれた日本固有の身体運動文化である。たとえば、建築・彫刻・絵画・音楽・舞踊・演劇・武芸・庖丁・衣紋・歌・俳諧・茶・花・香・漆芸・陶芸・木竹工芸・金工・刀剣鑄造・鑑定などの芸能の分野に、実技の方法と芸の哲学との両面を備えた秘伝書が作られているが、この秘伝書のなかに「芸道」の成立をみることができる。そこで、この講義では舞踊・演劇・武芸などの芸能を取り上げ、そこに成立している芸道の理論を検討するものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（理論） 基幹科目	異文化交流論	文化は民族という括りを単位として語られることが多い。そのため「異文化」は「異民族」を意味することも珍しくない。しかし、私たちの生活する基盤は国民国家であり、この枠組みの中で実に様々な民族が平和裏に生活を営んでいる。こうした平和がもたらされている背景には、お互いが異なる文化を認め合っているわけであるが、しかし、認め合うための始まりは異文化との交流がその手始めとなっていることは確かである。また、グローバル化の進行によって、異文化との接触が増え、時には民族や宗教紛争にまで発展している。そこで本講義では、異なる文化が交流することは何をもたらしてきたのかを、これまで起こってきた様々な事例をもとに解説するものである。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツボランティア論	スポーツボランティアは、自分から進んでスポーツに関わる活動を支えていく実践行動のことである。日本では1988年に開催された長野冬季オリンピック以降、その活動に光が当てられてきた。しかし、スポーツボランティアの存在が広く世に知られるようになるのは、2007年から始まる東京マラソンからである。こうしたビッグイベントでスポーツボランティアが必要なことは予想がつくであろうが、しかし、もっと身近な地域の少年野球やサッカー教室といったスポーツクラブやスポーツ団体の活動もスポーツボランティアによって支えられているのである。そこで本授業では、スポーツボランティアの役割やその範囲が今日に至るまでどのように変遷してきたのか、さらにスポーツ活動を支えるとはどのような意味を持つのかなどについて学修する。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツの安全指導 (リスクマネジメント)	スポーツの活動を垣間見ると、そこには指導者も学習者もさまざまな場面においてリスクと背中合わせの状態にあることがわかる。スポーツ活動中の怪我や事故はいつ起こるかわからないものであるし、また、行きすぎた指導をするあまり、しごき、体罰、ハラスメント、虐待といった状況に陥ってしまうこともあるかもしれない。こうしたこれから起きるかもしれない危険に対して事前に対応するための行動の指針をどのように持つと良いのであろうか。そこで本授業では、そうした危険な状況に陥らないための行動規範を学修しながら、スポーツをどのように安全に指導したら良いのかを考えていくことを目的としている。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	スポーツ医学	スポーツ医学は、競技スポーツによる障害の予防・治療や競技力向上のための医学としてスタートしたが、今やドーピング・コントロール、突然死、生活習慣病、健康管理、食生活・身体活動など、幅広い分野をカバーするようになっている。これらについてスポーツドクター資格を有する内科医、整形外科医がそれぞれの専門的立場より解説する。	
学部専門科目（理論） 基幹科目	野外活動論	現代社会は都市化が進み、生活空間の中に自然との触れあえる時間や空間が失われてきている。人々は心身のバランスを取り戻すために自然を求める行動を起こす。このような現象はこれからますます増加する傾向にあると考えられる。そこで本講義では、生涯に渡って楽しむことのできる自然とのふれあいを求め、そこで何かの活動をしようとする時に必要になってくる野外での活動の基本的考え方について学修し、将来的に指導者として必要な野外活動の基本的な理論を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（理論） 基幹科目	救急処置概論	事故発生の場合に、常に医師や看護師、また救命救急士がいるわけではない。そうした場面では、その場に居合わせた人が処置することになるが、その処置が的確であれば救命できたり、大事に至らないこともある。スポーツを指導する場面では、集団を取り扱うことも多く、事故や病気、怪我の発生するリスクも高まる。そこでその授業では、救急処置、応急処置に必要な知識の習得を目的としている。	
学部専門科目（理論） 展開科目	身体文化論	身体文化とは、私たちの「からだ」を中心にして、そこから紡ぎだされる文化的現象の全体を指す言葉である。本講義では、こうした身体文化がどのように捉えられてきたのかを日常の身体行為やスポーツなどを事例にしながら、文化論的な視点から解説を加えるものである。	
学部専門科目（理論） 展開科目	衛生学・公衆衛生学 (運動衛生学を含む)	衛生学(予防医学)と公衆衛生学の意図するところは、人々の疾病を予防し、健康の維持・増進をはかり、延命をもはかる科学である。したがって、疾病や健康障害の要因が如何なる条件下で生体に働きかけるのか、また起しやすい条件にどう対応するのか等について学修し、健康への理解を深める。	
学部専門科目（理論） 展開科目	機能解剖学	本講義は、人体の構造と機能(解剖生理学)を基本に置いて、その内容を構成している。体育は身体運動を通して健康の保持・増進を助長することを目的としている。また身体運動によって生体は反応し、運動に適した形態と機能を獲得してくる。したがって、本教科のねらいは、これらのことについて系統的に学修する。	
学部専門科目（理論） 展開科目	発育発達論	本講義のねらいは、発育発達に関わる身体の変化を理解することである。講義では、身体の変化を形態面と機能面の2つに分け、具体的なデータを示しながら展開する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（理論） 展開科目	スポーツ生理学	筋・神経・呼吸循環機能の身体運動における役割を基質・エネルギー代謝などと関連付けながら生理学的に理解し、知識を得るとともに身体運動に対する身体諸器官の急性および慢性の生理学的応答・適応のメカニズムを理解し、知識を深める。具体的な到達目標は以下のとおりである。1.身体運動およびその調節における筋・神経系の役割を理解する。2. 身体運動中のエネルギー代謝を理解する。3.身体運動中の呼吸循環系の役割をエネルギー代謝と関連しながら理解する。4.身体運動に対する身体諸器官の慢性適応を理解する。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・体づくり運動(体操)	体操は健康の維持増進を目的とし、学校体育・社会体育においても重要な位置を占めており、生涯体育の基礎的な役割を果たしている運動領域である。基礎的理論と実践から理解を深め、基本運動と体操の指導法を修得する。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・器械運動	器械運動は、実技必修科目として位置づけられており、教員採用試験においても多くの県が実施している種目である。「マット」「とび箱」「鉄棒」を使用し、「技が円滑にできる」ことをねらいとして、自己の努力や工夫によって器械器具の安全を確かめながら、洗練された運動が安定してできる段階まで練習すると共に、指導法及び補助法も身につける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・陸上競技	陸上競技の走運動からハードル競技の技術とスタート技術を学習するとともに、投運動から砲丸投げを学び技術の習得を始め安全面に対しどのような注意を払ったら良いのかを学び・実践する。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・水泳	文部科学省の学習指導要領に取り上げられている水泳の種目でクロールと平泳ぎの基本技術習得を目的とする。競技力向上のためではなく、正しいフォームを身につけ、長い時間ゆつくりと泳ぐことができるようになることをねらいとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・ソフトボール （野球を含む）	ソフトボールを中心に、個人やチームの技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。 ソフトボール又は野球の各種目の特性を踏まえ、バット操作やボール操作とボールを持たないときの動きを理解し実践する。 バット操作やボール操作では、バッティング、バントなどの技術を用いて、打ち返す方向をコントロールしてヒットをねらったり、進塁をサポートしたりして得点につなげる攻撃と、フライやゴロに対する補球動作と送球動作などの守備の技能を身に付ける。また、ボールを持たないときの動きでは、攻撃では、次の塁をねらう動きによって進塁することを、守備では、打球に応じた守備位置の移動や仲間と連携して中継プレイやバックアップをするための動きを身に付ける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・ダンス （フォークダンスを含む）	ダンスに必要な基礎的技術、理論の習得。学校体育(中学・高等学校)で取り上げられている創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスを学び実際に動きができる。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・球技A	ゴール型球技の各種目の特性を踏まえ、手でボールを扱うバスケットボールを中心に、ボール操作とボールを持たないときの動きを理解し、チームや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。 ボール操作の動きでは、ボールを保持したり相手をかわしたりして攻防を展開する技能を、ボールを持たないときの動きでは、パスを受けるために空間に走り込んだりゴール前へ侵入したりする動きによって、組織的に攻防を展開する技能を身に付ける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・球技B	ネット型球技の各種目の特性を踏まえ、ラケットでボールを扱い、一回の返球によって攻撃を組み立て打ち合うバドミントンを中心に、ラケットの操作と操作直後の動き理解し、ダブルスや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。 ラケットの操作では、サービス、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球場所をコントロールしたり、緩急や前後の空間への返球、シャトルの変化などによって、体勢を整えたり、相手の隙をついたりして攻防を展開する技能を、ラケット操作の直後の動きでは、空間を埋めたりカバーしたりする動きによって、攻防を展開する技能を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・武道（柔道）	嘉納師範が考えられた精力善用、相助相譲、自他共栄の精神を教え、社会人としての適応能力を身につける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・武道（剣道）	文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において全ての生徒に武道を履修させる事となった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合ができるようになる事を目標に授業を展開していく。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	運動方法・武道（相撲）	国技である相撲の歴史と実技を学ぶ。まわしの取り扱いの説明、蹲踞・四股・仕切り・構え姿勢の実践、塵浄水・四股・運び足動作の実践、押し・寄り・吊りの実践などを学修し、さらには審判法も身につける。	
学部専門科目（体育実技） 展開科目	スポーツ実践指導法・柔道	柔道の特性を理解し、正しい技術を身につける。基本技術から応用技術までを理解し身につける。到達目標として、初段から三段の技術を獲得すると共に、安全に授業を行う為の指導法を身につける。また嘉納師範が考えられた精力善用、相助相譲、自他共栄の精神を教え、社会人としての適応能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部専門科目 (体育実技)	展開科目 スポーツ実践指導法・剣道	学習指導要領の改訂により、2012年4月より全国の中学校において、全ての生徒に武道を学習させることとなった。そこで本授業では1年次に学習した運動方法・武道(剣道)の内容を復習しつつ、指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行いながら指導方法について学習をする。また、教育現場の現状を踏まえ、剣道具を用いずにできる「木刀による剣道基本技稽古法」についても学習をする。	
学部専門科目 (体育実技)	展開科目 スポーツ実践指導法・相撲	中学校・高等学校の保健体育教員を目指している学生に、相撲の歴史、基本、対人技能、主審の動作、審判法を習得し、指導法を身に付けさせる事を到達目標とする。	
学科基礎科目	基幹科目 スポーツ文化論	本講義では、スポーツを文化現象としてとらえる視点と考え方を学修する。そのために前半部ではスポーツを文化として理解するための文化の構成要素(言語、物質、認識、宗教、民族など)をスポーツの現象の中に見出しながら、スポーツが如何に文化的なものであるかを解説する。また後半部ではこれまでの人類の歴史をとおしてスポーツが文化的な現象として、それぞれの時代の中でどのような役割を果たしてきたのかを学修する。	
学科基礎科目	基幹科目 文化人類学	文化人類学はフィールドワークという方法に基づき、世界のさまざまな民族の諸活動の背景にある文化を理解し、人間の在り方を考えていく学問である。この授業では文化人類学の視点と方法を学びながら、民族と国家、家族親族、宗教、ジェンダー、開発や観光、移動など、現代社会を理解するうえで不可欠なテーマを取り扱う。これを通して生活様式の違いや価値観の違いから起こる諸問題を捉え、解決へ導く基本的な視点や考察力を学修することを目的とする。	
学科基礎科目	基幹科目 スポーツ人類学	スポーツ人類学はスポーツを窓口としながら文化的他者についての理解を深めることを目的とする学問である。そこでこの授業では、スポーツが地球規模で拡散していった原理やその背景、またスポーツが当該社会と融合する過程、スポーツと宗教や民族などとの関係を人類学視点から解説する。さらに、現代社会の中に見られるスポーツとアイデンティティの問題やスポーツの中に見られる差別や排除の問題などについて取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 基幹科目	武道論	日本古来の身体運動文化である武道は、現在、世界各国に伝播・普及し、多くの人々に親しまれている。武道が海外に普及するに至るまでには、実に長い年月を要してきたが、その間、日本国内において運動競技とは異なる文化性を醸成させてきた。そのため日本固有の精神性ともいえる「道」という考え方が武道の中核となったのであった。本講義では、武道とは何かを理解するために武道のこれまでの歴史を辿り、我が国固有の身体運動文化がどのように形成されて現代に至ったのかを概観するとともに、その中に示されることになる「道」の精神とは何かについて解説するものである。	
学科基礎科目 基幹科目	礼法	礼法とは、無駄を省いた美しい所作である。マナーやエチケットは約束事であり常識さえあれば誰でも実行できるものである。日本人の感覚として、日常生活の中でも「美」が大切にされていることは周知の事実である。たとえば日本には四季があり、それぞれの特徴とその自然環境に衣服や住居などの生活を調和させている。そして人と接する際には美しい立ち居振る舞いが好まれ、武道においても動作の基本は構え・姿勢にあると言われている。本講義では、人との「間」「間合い」「間柄」などを大切に考えながら、所作を通じてお互いの人格を尊重できる教養(言語・動作)を学修する。	
学科基礎科目 展開科目	トレーニング学	内外を含めた体力の定義を理解し、体力の考え方を認識するとともに、生理学的基礎知識等に基づく科学的トレーニング方法の基礎を理解する。	
学科基礎科目 展開科目	コーチング学	コーチング学は、本学学生にとっては極めて重要な学習領域であるといっても過言ではない。当該授業では、「スポーツ指導論」「スポーツ方法学」「スポーツ運動学」等と共通する内容を取り上げており、各領域における基本的知識を学修するために授業展開上の独自の副題を「スポーツ指導の基礎」としている。本学学生の将来にわたるスポーツ活動との接点は多岐にわたるため当該授業においては、「スポーツ指導者の危機管理能力」の向上をも視野に入れ、スポーツ実施者のスポーツ実施目的と個人的諸条件(個人差)を十分考慮しながら、楽しいスポーツ活動の展開へ向かって、より望ましいスポーツ指導法およびより好ましい指導者像確立のための基礎を学修する。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツ心理学	スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とする。本講義の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 展開科目	スポーツバイオメカニクス	日常生活からスポーツ活動において見られる人の動きは、身体内部で発揮される力、骨格などの身体構造、地球上での力学的性質（重力、摩擦力、空気抵抗など）、神経制御との関連から成り立っている。人の動きを客観的にとらえるために必要な科学用語を知り、代表的な科学法則を理解する。各人がこれまで行ってきたスポーツだけでなく、種々の動作の共通点、相違点を客観的にとらえることができる。	
学科基礎科目 展開科目	人権教育	近代自然法思想に基づいた人権思想は、日本国憲法の基本的原理の一つである。従来、人権教育は、法学あるいは教育学のどちらかに重点が置かれていた。そこで、その法的原理や法的展開を学習するとともに、学校教育における人権教育は、総合的教育活動が展開されていることを学び、人権尊重の重要性を考えさせたい。人権教育の目標である人間の尊厳、人権擁護に関する知的理解や豊かな人権感覚、豊かな人権尊重の理念についての認識を育み、身に付けられるように学習を進めたい。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツ栄養学 (食品学を含む)	栄養の役割と重要性を理解し、栄養学の基本と実践栄養学の食事学を理解し、スポーツとの関係についても正しい知識と食事の実践力を身につける。	
学科基礎科目 展開科目	学校保健 (小児保健・精神保健を含む)	学校保健は、子どもの健康を守り育て、到達可能な最高水準の健康を教授するという「子どもの権利」を保障する役割を担っている。そのため、学校保健の授業では、成長期にある子どもの現代的健康課題を把握し、学校保健全般についての理解を深めるとともに、子どもの健康の保持増進に必要な学校での具体的方策を立てる能力とその方策を実行する能力を養うことを目的とする。	
学科基礎科目 展開科目	学校安全 (救急処置を含む)	安全で健康な学校生活を送り、望ましい行動を行うには、学校をとりまく環境、学校内での先生・生徒関係、生徒どうしの交友に関心をもち、互いに認めあう心を育むことが必要です。将来生徒指導の視点を持つことの重要性を理解させたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 展開科目	スポーツ経営管理学	スポーツ経営管理学とは、人間にとっての体育・スポーツの価値を最大化して、効率的・継続的にその価値を享受させるための組織的活動の原理原則を探究する学問である。もっとも、その各論(学校体育・総合型地域スポーツ・商業スポーツ施設・スポーツイベントなどの経営管理)は多岐にわたるが、講義では、体育・スポーツ活動の条件整備に係わる理論である「事業論」、事業を組織的に営むための理論である「組織論」(組織構造・組織過程)を中核とする。また、社会におけるスポーツ活動の多様化にあわせ、「スポーツ経営管理学」が取り扱うスポーツ場面も広がりを見せているが、本講義では、学校体育と地域スポーツの経営を中心にしながら、体育・スポーツ経営管理の考え方、進め方について学んでいく。	
学科基礎科目 展開科目	国際情勢理解	国際情勢を理解するためには、国家間の利害関係やその対立を政治的に調整・解決していく国際社会の在り方だけではなく、現在では国際化やグローバル化が進むことで、世界規模で直面している様々な問題(安全保障、人権問題、環境問題等)も取り上げる必要がでてきている。この授業では、複雑な現代国際政治を理解するための基礎的な知識を学修することを目的としている。	
学科基礎科目 展開科目	スポーツと国際協力	我が国ではJICAを中心としながら、これまで開発途上国に対して多くのスポーツ協力活動を展開してきた。本学でも1966年に最初のJICA隊員を送り出し、その後も継続的に国際協力を推進するための人材を輩出してきた。この授業では、スポーツを通じた国際協力とは何か。また、スポーツによる国際協力援助をどのように推進したら良いのかなどについて学修する。授業展開としては、前半部の授業において国際協力の全体像を説明した後に、JICAボランティアの経験者をゲストとして招き、スポーツを通して国際協力に従事することの直接経験を語ってもらう。最終的にスポーツを用いた国際協力とはどのようなべきなのかを学修する。	
学科基礎科目 展開科目	国際保健学	国際保健学とは、グローバルレベルで人々の健康課題について研究する学問である。感染症対策、国際保健協力活動、および国際開発が主流で、これまで公衆衛生、疫学、医学、人類学、開発経済学などの複合的な学問領域で考えられてきた。しかしながら、スポーツを通して見えてくる健康水準の格差、さらには異文化コミュニケーションへの理解も重要である。例えばイスラム女性のスポーツへの積極的な参加は、ヘルスプロモーション活動の基盤づくりとなる。あるいはアフリカでは、すでにサッカーをエイズ啓発に活用するなど、スポーツを手段とした保健指導や地域開発の指導が推進されている。このようにスポーツ分野からの国際保健学へのアプローチは、今後、新たな健康戦略として期待されている。そこで本授業ではスポーツ分野からの国際保健医学へのアプローチについて学修するものである。	
学科基礎科目 展開科目	伝統芸能論	伝統芸能である能・狂言を中心とした歴史を学び、実技習得をはかる。その内より、日本文化に触れて日本人らしさを取り戻す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科基礎科目 展開科目	伝統芸能史	芸能とは学問・芸術・技能などのすぐれた能力のことをさすが、本講義では囲碁・双六・散楽・遊女・傀儡子・相撲などの狭義の芸能・遊技的職能を取り上げ、その成立の経緯について講ずることとする。また室町期以降、職能の分化の進行とともに、「職人」は手工業者を指す語になったことから、芸能もしいにその意義が限定されるようになって、生け花・茶の湯・歌舞音曲などの遊芸をさす言葉になっていることにも着目したい。要は伝統芸能を芸道の観点からとらえ、その枠組みから伝統芸能史を考えてみようと思う。	
学科基礎科目 展開科目	伝統芸能の諸相	伝統芸能と一言で言っても、その中身は多様である。本授業では、伝統芸能と考えられている日本固有の文化的活動はどのようなものなのかを整理しながら、それらの諸活動がどのように実践されているのかを概観し、その固有性を理解することを目的とする。また諸芸能の相互の関係についても学修するものである。	
学科基礎科目 展開科目	比較舞踊学	人類とともに舞踊がある。時代の文化的変化と発達に伴い、いろいろな地域で発展してきた舞踊の特性を理解し、舞踊学を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 基幹科目（理論）	スポーツ国際概論	「スポーツ国際」という名称は、なかなか馴染みの薄い言葉である。ここではスポーツが国際社会において果たすことのできる役割や可能性を示す言葉と定義しておきたい。これまでのスポーツの歴史を紐解けば、スポーツは単に勝敗を競うためだけのものではなく、時には政治的で社会的な役割を持たされてきたことも多い。その一方でスポーツ場面を通して、平和活動や貧困問題などに目を向けさせる活動も多く展開してきている。そこで本講義では、国際社会の中でこれまでスポーツはどのような役割を果たしてきたのかを学修し、そうした事実を基にして今後のスポーツの可能性を考えていくものである。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	スポーツフィールドワーク論	スポーツ活動を理解していくためには、何らかの調査が必要である。調査には量的な調査と質的な調査が存在しているが、フィールドワークという調査方法は、どちらかといえば質的な調査方法と関連するものである。質的な調査方法は実際に現場（フィールド）に足を運び、そこで仕事（ワーク）する。フィールドワークの必要性は当該社会において、スポーツを指導しなければならない時には特に重要になってくる。この授業ではフィールドワークを行うことの意味はもちろんのこと、これまで行われてきたフィールド研究を紹介しながらフィールドワークとは何かを学修する。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	アジアのスポーツ文化論	アジアの中で行われているスポーツは、いわゆる近代スポーツの範疇に入るものを除くと、宗教や民族と深く結びついたものが多い。これらのスポーツは民族スポーツや伝統スポーツという概念でくられるスポーツであり、純粹に競技としてだけの意味を持たないものも数多くある。そこでこの授業ではアジア地域において民族や宗教と関係してきた民族スポーツや伝統スポーツを取り上げ、それらのスポーツが当該社会にどのように機能してきたのか、また、その機能が失われた後にどのような意味を持たされてきたのかを具体的な事例を通して学修するものである。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	欧米のスポーツ文化論	本講義で取り上げる欧米はヨーロッパ、アメリカ、カナダの他にオセアニアやオーストラリア、ニュージーランドなども含めたエリアを指している。欧米文化の中で行われているスポーツの多くは、いわゆる近代スポーツとして成立してきたものである。しかしながら中には民俗スポーツ（folk sport）的に位置づけられるようなスポーツ活動も存在している。さらに先住民たちによって行われてきたスポーツ的な行為がスポーツに整備される状況も確認できる。本授業では欧米社会にみられる伝統的なスポーツにスポットを当て、地域社会やキリスト教文化、あるいは先住民文化と結びつきを明らかにしながら、欧米のスポーツ文化とは何かを学修するものである。	
学科専門科目 基幹科目（理論）	ニュースポーツ論	世界中には実にさまざまなスポーツらしき活動が繰り広げられてきた。いわゆる民族スポーツなどもそのようなスポーツの一つである。これらのスポーツ的な活動は、現在、新しくアレンジされニュースポーツとして実践されるに至っている。いっぽう、ニュースポーツはレクリエーション種目の中にも位置づけられるようになり、その役割の幅を広げている。ニュースポーツは、福祉、医療、教育、職場、地域社会などさまざまな場所で行われ、日常生活の質（QOL）の向上に大きな役割をはたしてきた。そこでこの授業では、ニュースポーツやレクリエーションを生活の中に取り入れていくことの意義や必要性、役割、形態などについて、これまでのニュースポーツの歴史も踏まえながら学修することを目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 基幹科目（実践）	スポーツフィールドワーク実習	この授業はスポーツを対象としたフィールドワークの方法を身に付けていくことを目的としている。フィールドワークを行うためには、いくつかの調査技術が必要である。そこでこの授業では、具体的な調査方法を解説した後、その方法を用いて学内において調査を実施する。こうしたことを何度も繰り返しながら、フィールドにおける調査ができるようになる能力を養う。	
学科専門科目 基幹科目（実践）	ニュースポーツ実技	人と人とのコミュニケーションが円滑に機能することで、その輪が広がり豊かな人生を切り開くことができる。現代社会においては老若男女を問わずに、こうした人々の紐帯を築き上げていくことが重要である。この授業ではニュースポーツの体験、プログラムの企画、および実践と評価、環境づくり等の学習を通して、ニュースポーツによる活動を展開し、支援していくための実践的な能力を学修する。	
学科専門科目 基幹科目（実践）	スポーツ国際実習	この実習科目は、海外でおこなった活動を評価し単位認定するものである。対象となる活動は、本学と提携をもつ海外の大学ならびにJICAにおいて、ボランティア等の活動が中心となる。	
学科専門科目 基幹科目（実践）	スポーツ国際支援実習	スポーツ国際支援実習では、海外において行われるスポーツ活動の支援を中心として、その技術を身に付けることを目的としている。そのためこの実習においては、伝統文化交流実習とジョイントして裏方の仕事をしながら海外でのスポーツ活動を支援するとは如何なることなのかも含めて、スポーツの国際支援の方法を学修する。	
学科専門科目 展開科目（理論）	スポーツとコミュニケーションA	本講義では、スポーツ場面において、英語でコミュニケーションをとっていく方法や、英語によってスポーツに関する様々な情報を理解したりする能力を養うことを目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目	展開科目（理論） スポーツとコミュニケーションB	本講義では、スポーツ場面において、英語以外の言語によってコミュニケーションをとっていく方法や、英語以外でスポーツに関する様々な情報を理解する能力を養うことを目的としている。	
学科専門科目	展開科目（理論） スポーツマネジメント	明確な目標、気が置けない仲間、使いやすい道具、十分な時間、スポーツを楽しむために整えたい条件は、さまざまである。自身がスポーツを楽しむための条件は、これまで、だれによって、どのように整えられてきたのだろうか。この授業では、スポーツ実施者(学習者・愛好者・競技者)の立場から、豊かなスポーツライフを実現するための諸条件の整備(マネジメント)について学ぶ。	
学科専門科目	展開科目（理論） 世界のスポーツ情勢	スポーツは日々刻々とその在り方を変えてきている。また、スポーツは社会の人々に活力を与えたり、人々をまとめ上げていく力も持っている。その一方で近年ではオリンピック招致に象徴されるように、経済的な価値観が先行することでメガイベントの招致を反対するような活動も展開されるようになってきた。こうした動向はスポーツそのものが単独であるのではなく、多くのものと連関することで成り立っていることを教えてくれる。つまりスポーツの情勢を知ることは世界を知ることにもつながると考えられるのである。そこで本授業では世界各国でのスポーツ状況を取り上げながら、スポーツを通して社会を理解する方法を学修する。	
学科専門科目	展開科目（理論） スポーツメガイベント論	スポーツのイベントが国家や地域社会に与える影響は計り知れない。その最たるものがオリンピックやワールドカップなどに代表されるメガイベントである。こうしたメガイベントは地域社会に大きな恩恵をもたらす反面、その大会で使用するために作られた建造物を大会終了後にどのように維持していくのかといった、いわゆるレガシーの問題も考えていく必要がある。そこで本講義では、いくつかの事例を取り上げ、その分析を通してスポーツメガイベントが国家や地域社会にどのような影響を与えてきたのか、また、イベント終了後にそのレガシーをどのように活用しようとしてきたのかを学修する。	
学科専門科目	展開科目（理論） スポーツ政策論	スポーツ政策は歴史的に見ると国民国家成立以降の20世紀に入ってから本格的に展開されてきた。その政策はそれぞれの国情によって異なっており、政策そのものに当該国家の状況を見て取ることができた。そこで本授業では、まず、我が国のこれまでのスポーツ政策を概観した後に、それとは異なるいくつかの国家のスポーツ政策を確認することで、国策とスポーツがいかなる結びつきを持っているのかを解説するものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（理論）	スポーツ情報リテラシー	インターネット上に蔓延するスポーツに関連する情報を効率よく収集し、またその収集されたデータを解析することはとても重要なことである。さらに情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理はスポーツ情報を取り扱ううえで基礎となるものである。そこで本授業では情報処理の基礎的な技術を学びながら、併せてコンピュータを用いた情報表現の方法を学修する。	
学科専門科目 展開科目（理論）	比較スポーツカリキュラム論	世界各国で展開されている学校教育におけるスポーツのカリキュラムは、日本と同様に時代とともに変化をしてきた。なぜなら、それは各々の国の歴史や制度と深く関係しながら作成されてきたからであり、カリキュラムそのものには理念が反映されるからである。そこで、この授業では諸外国のカリキュラムに目を向け、日本のカリキュラムとの比較の中で、それぞれの国でカリキュラムがどのように考えられてきたのかをカリキュラムの特徴から明らかにするとともに、日本とは異なるスポーツ教育のあり方を学修するものである。	
学科専門科目 展開科目（理論）	スポーツ運動のメカニズム論	スポーツにはそのスポーツ種目独自の多様な動きのメカニズムが存在している。こうした動きのメカニズムを知ることは、スポーツ技術そのものものを習得したり、指導したりする上において非常に重要であるとともに、スポーツ技術そのものの構造を知る上でも必要なことである。そこで本授業ではスポーツ運動種目のさまざまな動きのメカニズムを理解しながら、それぞれのスポーツが持つ運動技術の構造を学修することを目的とする。	
学科専門科目 展開科目（理論）	健康スポーツ開発論	本講義は、開発途上国において健康がどのように維持されてきたのかを、国際保健学の観点から学修することを目的とする。開発途上国での健康の維持増進は、基本的に公衆衛生や感染症対策等の知識の導入が有効であり、このような前提のもと次の段階でスポーツ活動が効果的な役割を果たすことになる。そこで本授業では開発途上国における健康問題がどのように克服されてきたのか。またそうした活動が国際協力の現場でどのように実践されてきたのかを概観するものである。	
学科専門科目 展開科目（実践）	エスニックスポーツ実技	エスニックスポーツとは、もともと民族固有の伝統文化であり、民族のアイデンティティを高揚させる効果も持っていた。そうしたエスニックスポーツは、その後、グローバル化によって各地にもたらされることになり、いわゆるマイナースポーツとして、息づいている。その中で、太極拳やヨーガのように地球規模で拡散定着したものもある。この授業では、エスニックスポーツとして位置づけられるようなスポーツを取り上げ、それを半年間通して学んでもらいながら、今までほとんど取り組んだことのないスポーツの異文化体験をしてもらうことを目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 展開科目（実践）	身体表現実技	表現の形式は言語だけに限らない。身体もまた饒舌なコミュニケーションツールとなり得る。例えば、ダンスや体操は誰もが知る身体表現技術の一つである。この技術を通して共有される感情が生まれたり、あるいは他者の身体との間で共振が起こったりもする。この授業では自分自身の内面にある感情の発露を踊りや体操という方法で表出する技術を学修する。	
学科専門科目 展開科目（実践）	海外スポーツ指導実技	この授業では英語を用いて、スポーツ指導ができるような能力を身に付けていくことを目的に開講されるものである。開発途上国ではスポーツ用品をすぐに手に入れることは難しく、そのため体操、陸上、サッカーなどが主に学校教育での教科科目となっている。こうした状況を鑑み、この授業では海外でスポーツ指導をするにあたって必要な基本的な指導技術（整列や準備体操）や体操の指導技術を学修する。	
学科専門科目 資格関連科目	教師論	「教育は人なり」といわれるように、教育の成否は教える教師次第であり、教師の人間性と専門性により教育効果は大きく左右される。教師、学校とは何か、教師に求められる資質能力、専門性とは何かを学び、関係する法規等についての理解を深める。また、今日の学校と子どもや教師の実態を踏まえ、これからの学校教育、教師のあり方について考えるとともに、教職への意欲と目指す教師像を明らかにする。	
学科専門科目 資格関連科目	教育原理	教育について、歴史、思想、制度、今日の課題など、教職に関する今後の学習に必要な基本的な事柄を広く学びます。教員免許を取得するにふさわしい知識と態度を身につけることを目標とします。	
学科専門科目 資格関連科目	教育心理学	教育心理学は、教育に関する事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるために必要な心理学的知見と心理学的技術を提供しようとする学問である。この講義では、教育心理学にかかわる基本的知識の獲得をめざし、教育心理学全般を概観しながら、学校現場における心理的問題について学習していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 資格関連科目	体育科教育実践法	保健体育科教員として授業を行う能力を身に付けることが本授業の目的です。良い体育授業についての理論を学ぶとともに、体育の模擬授業を行い、教育実習や教員採用試験、あるいは教員に求められている実践的指導力の基礎を培います。具体的には、単位時間の指導計画の書き方、実践的な指導方法、教材研究などを学ぶ授業です。	
学科専門科目 資格関連科目	保健科教育実践法	保健体育の教員としての資質を身につけるため、保健(分野)の授業をテーマに単元計画、単位時間計画を作成して模擬授業を行えるようにする。ワークシートを作成して発表したり、模擬授業やロールプレイなどを通してプレゼンテーションの力を身につける。	
学科専門科目 資格関連科目	体育科教育法	体育科の目標、内容、指導計画、学習指導法、評価の方法等について理解を深め、保健体育科教員として授業を展開していくのに必要な基礎的資質を養う。	
学科専門科目 資格関連科目	保健科教育法	本講義は、教育職員免許法に基づく中学校及び高等学校の普通免許状(保健体育・一種)の取得要件として設定されている。そのため、保健体育科の教員としての授業力の基礎を培うことを目標として設定するが、当面は、教育実習において保健の授業づくりに工夫ができる力を身につけることを目指す。	
学科専門科目 資格関連科目	教育課程論	教育課程の意義及び意味と内容、編成の基準等について、その法的な側面からの理解をするとともに、歴史的な流れをしっかりと見据えながら理解を深めていく。その理解を深めることにより、教職者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 資格関連科目	学習指導論	学習者が確実に速やかに、しかも容易に知識や技能を習得したり、学習する能力を身につけていくためには、学習者の実態を正しく把握し、それらに応じた望ましい学習指導の方法が講じられるべきである。本講義では、学習集団のとらえ方や教材の選び方を学び、合理的な学習指導法について理解を深める。	
学科専門科目 資格関連科目	道徳教育の研究	本講義では、以下のことを目的として展開する。1. 学校における道徳教育の意義、目標について理解する。2. 道徳教育の指導に当たる教師としての基本姿勢はいかにあるべきか理解する。3. 講義・演習を通して、道徳の時間における指導力を身に付ける。	
学科専門科目 資格関連科目	特別活動の研究	中学校及び高等学校における、教育課程の一領域として位置づけられている特別活動の意義や目標を理解し、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法や展開技法、実施計画の立案などを学び特別活動における実践的指導能力を養う。	
学科専門科目 資格関連科目	生徒指導論 (進路指導を含む)	近年、学校現場において不適応行動や問題行動の多発から、教育の真の在り方が問われている。生徒指導はこれまでの教育のひずみを是正し、真の全人間教育に立ち返らせるものとして認識されている。このような立場から、生徒指導の意義、基礎的知識およびその応用について理解する。	
学科専門科目 資格関連科目	教育カウンセリング	カウンセリングの総合的理解と学校現場における子どもたちの悩みに対応するために、教師としてとるべき行動を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 資格関連科目	教育経営	わが国の学校は単独の組織体ではなく、公教育制度の中に位置づけられるものであり法律的に制度化されたところの学校である。したがって教育経営論では学校教育に関する法律及び教育の制度と教育行政を学習するとともに、現場での事例をとりあげながら教育経営の概念を理解し、実践にそなえる。	
学科専門科目 資格関連科目	事前事後の指導	教育実習の意義と目的について十分に理解を深め、教育実習生としての自覚と心得を養うとともに、実習を通して実務や教科指導、学級指導、ホームルーム経営(道徳指導)などについての実践的な指導力を高める。教育実習の成果を自ら評価し、教育実習生としての資質向上を図る。	
学科専門科目 資格関連科目	教育実習	教科「保健体育」に関する学習指導の方法、生徒指導、学級経営の方法を実習を通して学習し、中学校及び高等学校教員として必要な資質・能力を養う。	
学科専門科目 資格関連科目	教職実践演習	教育実習の経験から学校教育の課題を自ら見つけ、解決のための具体的な実践方法について考えるとともに、課題解決型の学習を通して、社会性や対人関係能力を育てるとともに、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を育成し、学校において起こる得る教育課題について、解決していくための実践的な指導力を身につける。	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この類を作成する必要はない。

別記様式第2号(その1の1)補足資料

学校法人日本体育大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本体育大学					日本体育大学				
体育学部					体育学部				
体育学科	750	—	3000	→	体育学科	750	—	3000	
健康学科	195	—	780		健康学科	195	—	780	
武道学科	120	—	480		武道学科【廃止】	0	—	0	平成29年4月学生募集停止
社会体育学科	195	—	780		社会体育学科	195	—	780	
					<u>スポーツ文化学部</u>				学部の設置（届出）
					<u>武道教育学科</u>	100	—	400	
					<u>スポーツ国際学科</u>	100	—	400	
児童スポーツ教育学部					児童スポーツ教育学部				
児童スポーツ教育学科					児童スポーツ教育学科				
児童スポーツ教育コース	150	—	600		児童スポーツ教育コース	150	—	600	
幼児教育保育コース	50	—	200		幼児教育保育コース	50	—	200	
保健医療学部					保健医療学部				
整復医療学科	90	—	360		整復医療学科	90	—	360	
救急医療学科	80	—	320		救急医療学科	80	—	320	
計	1630		6520		計	1710		6840	
日本体育大学大学院					日本体育大学大学院				
体育科学研究科 博士前期課程（M）	25	—	50	→	体育科学研究科 博士前期課程（M）	25	—	50	
博士後期課程（D）	6	—	18		博士後期課程（D）	6	—	18	
					<u>実践教科教育学研究科 博士前期課程（M）</u>	20	—	40	研究科の設置（認可申請）
					<u>博士後期課程（D）</u>	5	—	15	研究科の設置（認可申請）
計	31		68		計	56		123	